

第 17 日目（3 月 14 日）

○議 長（小澤 実君） おはようございます。延会前に引き続き本会議を再開いたします。

○議 長 ただいまの出席議員数は 22 名であります。これから本日の会議を開きます。

なお、病院事業管理者、公務のため欠席、副市長、公務のため午前欠席、監査委員、通院治療のため午後欠席の届けが出ておりますので、報告いたします。

なお、新潟日报社から写真撮影の願いが出ています。これを許可いたします。

[午前 9 時 30 分]

○議 長 日程第 1、第 7 号議案 平成 30 年度 南魚沼市一般会計予算の審議を続行いたします。

教育費に対する質疑を行います。

9 番・桑原圭美君。

○桑原圭美君 235、237 ページの図書館管理運営費で、237 ページになります。これ 2 点質問いたします。

1 点目は共益費等負担金、これは再三私も質問させていただいて、今回すごく削減されて、評価をしておりますが、一体どの部分が削減して努力した部分かというのをお聞きしたいと思えます。

もう 1 点が、福祉の部分かなと思ったのですが、図書館で文字拡大機というのを導入している自治体があるのですが、ちょっと視力の弱い方が文字を拡大して見られる。そんなに高くない機械ですが、こういった部分を今後図書館で導入していく方向があるのかどうか、この 2 点についてお聞きをします。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 共益費につきましては、昨年ほぼ同様ということになってございますけれども、これについては共用部分の光熱費であるとか、除雪費、それからもろもろ、エレベーター・空調等の管理費、それから土地の借上料ということで、床面積の持ち分割合に応じまして負担ということになってございますが。これは季節というか、降雪等の変動等もありまして、実費昨年並みということで計上させていただいてございます。

それから、文字の拡大機でございますが、ちょっとうちの図書館にあるかどうか、私が承知してございませんが、必要であれば検討してまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○議 長 8 番・永井拓三君。

○永井拓三君 図書館の多目的室と、あと学びの郷南魚沼プランについてですが、多目的室はすごく使いやすくて、ほかの自治体にはないようなものを持っていると思うのですが、あれの今の稼働率を知りたいのが 1 件。

そのほかに、学びの郷南魚沼プランの中で生涯学習センターというものがかなり話に上がっていて、確か平成 30 年度で設置という予定だったと思うのですが、予算の中に見当

たらないのですが、生涯学習センターについてはどうなっているのか教えてください。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 図書館の多目的室ですけれども、今現在ちょっと稼働率の資料を持ち合わせておりませんので、後でご報告をさせていただきたいと思います。

それから、学びの郷につきましては、生涯学習事業としましては、項目立てがございませんが、既存の公民館事業を含めて、学びの郷の趣旨、これは地域の持つ教育資源を生かした教育、生涯教育を行うということになってございますので、この理念を生かして既存公民館事業を改編、再編しながら行ってまいりたいというふうに考えております。

それから、生涯学習センターですが、昨年度の検討委員会で検討してまいりました。生涯学習センターの理念とか業務目標、その他については検討いただいておりますが、場所の選定については、いまだ設置の場所が決まっております。ここにつきましては、来年度以降どの場所に設置をしていくか、その辺も含めて検討してまいりたいというふうに思っております。以上でございます。

○議 長 6番・田中せつ子君。

○田中せつ子君 249 ページ、体育施設整備事業費の中のモンスターパイプの夜間照明について3点伺います。照明をつけることによって見込みできる入込数増をどれくらい見込んでいるか。

2点目は、照明をつけることで維持管理費が増えると思うのですが、その上のほうの指定管理者委託料のところ、前年比50万円増ということですが、この照明についての委託の中で維持管理費によって委託料が増える部分は幾らなのか。

3点目は、モンスターパイプをつくる時に県のほうの支援はいただいているのですが、今後の支援の見込みについて。県の支援がどれだけ見込めるかという、期待されるかというところについて、以上、3点お願いします。

○議 長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 照明ができることによる入れ込み増でございますけれども、具体的な数字としてつかんでいるものはございません。市長答弁が前にもあったとおりですが、今、子供たちが学校を休まないと利用できないような状況で運営しております。時間につきましても、昼間の時間帯ですとどうしても日の光を浴びてしまうということで、パイプ自体がもろくなってしまうということで、2月までが10時から2時までの営業で、3月からは9時から13時の営業ということで、1日4時間で営業しております。夜間になりますと当然冷え込みますので、パイプのもちがいいという部分、それから子供たちの利用が促進される部分ということで、現在に比べれば当然増えると思っておりますけれども、具体的な数字として幾らという部分は現在では持ち合わせてございません。

照明の増に伴います電気料ですが、LEDということで考えておりますので、ほぼ電気代はかからない。今3月補正で実はいただきました二日町のグラウンドのナイター照明あるのですが、あれも点灯するのは夏の間結構使うのですが、あれで今見てい

るのが大体10万円くらいです。既存の水銀灯ですと100万円を超えるような予算でしたので、LEDになると激減するというふうな形です。今まで電気なかったわけですが、LEDについても10万円とかその程度というふうなことで見込んでおります。

県からの助成ですけれども、こちらにつきましても、当初県から南魚沼市に補助金を出すのでつくらないかと言われた際に、その話の中では今後維持管理費のほうも支援していくからというふうな、そこは口でのお話だったので、今後はまたその部分は、あのときの約束はどうなったのだという部分を、どんどん県には詰めていかななくてはいけないと感じております。とりあえず、新年度の中では県からの支援の部分というのは予算化がまだされておられません。以上です。

○議 長 21番・牧野晶君。

○牧野 晶君 235ページの図書館管理運営費。昨年も言ったし、おととしも言ったのですが、漫画を置いてくれという声が、私はすごい強く感じているのですよね。実際、漫画今あるのが手塚治虫さんとかあとドラえもんとか、昔の名作みたいなやつばかり、あとはジャンプくらいしかないわけですが、例えばスラムダンクだってそうだろうし、ほかにもいろいろなスポーツ漫画があったりとか、あと例えば山岡荘八さん著書の、私がすごい思うのは徳川家康とか三国志とか、そういうのも置いて、いろいろなところを踏み込みしやすくするようにする努力も私は大事だと思うのですが、その点についてどう思っているのかについて、漫画をもっと増やして、なかなか増えないので、その視点をどう思っているのか。

あと、決して課長がだめだというわけではないですが、もう公民館長をあそこにいる方にしたらどうだというふうに私は思うのです。そのほうがいろいろと課長の負担も軽くなると思うし、連携とりやすく、連携というか、独自色がもっと出しやすくなるのではないのかなというふうな思いがあります。そのまず図書館は2点ですけれども。

あと、済みません、学校管理費がどこに行ったかな。全体でちょっと話させてもらいます。今ちょっと長谷川課長の答弁があったわけですが、LEDにするとお金がかからなくなるという。学校の体育館ね、環境審議会でもすごい言われたのですよ。学校の体育館のLED化どうなのだとか、水銀灯がこれから使われなくなるけれども、どうなのだというふうに言われたのですが、今の課長の答弁だと100万円だったのが10万円になるということであれば、市内の体育館の水銀灯をやれば、すごい浮くのではないのかなと思うのですが、そういう視点は検討したかどうかについてお聞かせいただければと思います。

○議 長 市長。

○市 長 済みません、図書館長については、人事の関係がありますので向こうは答えられないと思います。非常に検討させていただいています。確かに議員おっしゃるような担当課長の負担というのもあるとあって、さまざま市内にはいろいろな話が出ています。ただこれから、一方で学校教育における図書関係とかさまざまある中で、その辺をいかにしてやろうかというのは今検討していこうという気持ちは持っておりますので、そういう点でご理解

いただきたいと思います。今年度初頭からは館長のそういう設置というのではありませんでしたが、十分考えさせていただきたいと思っております。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 漫画本の整備ということにつきましては、たびたびご指摘を受けてございますが、図書館ですので、やはり貸し出し等を考えますと、雑誌的な、週刊誌的な漫画というものは整備がなかなか難しい面もございますが、ご要望をよく聞きながら、ハードカバーの漫画等を整備していく必要があれば、今後検討させていただきたいということでお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。以上です。

○議 長 教育部長。

○教育部長 3番目のご質問でございます。LED化につきましては、ただいま故障した器具等については順次交換しております。議員おっしゃるとおり、費用対効果を考えますと何年か、5年くらいすればもとがとれるような形であると考えておりますけれども、私どものほうは、今のところ大規模改修に絡めまして修繕をしていく方向で考えております。以上です。

○議 長 21番・牧野晶君。

○牧野 晶君 それこそ、体育館ではなくて公民館長のほうはわかりました。

漫画に関しては、もうできてから何年も何年も言っているのに、何で必要に応じてと言われるのか。では私が言っているのは必要に、市民の声を聞いてこう話しているわけですよね。それが必要に応じてと、聞こえていないのかなと思うので、ではポストに入れればいいのですか。こういう本を置いてくださいのポスト。それでやれば入れてくれるよというのだと、私が消極的な図書館運営だと思うのですよね。そうではなくて、漫画というのに関してもうちちょっと考えを改めていただければなという思いがあります。

あと、これが私、本当すごい失敗したなと思うのが、もう1個あったのですよ、図書館に関して。きょう、新聞で十日町のシネマパラダイスが終わったというので、あの人たちよくこちらに来て、市民会館とかでドラえもんを上映してくれたりしていたのですよね。でも、デジタル化になって、なかなかできなくなったとか。今市内で映画を打つって、学校教職員組合だかが1回やるかやらないかくらいなのですよ、どこかで。できれば、なかなか難しいかもしれないですけども、機械を、1,000万円もする機械をデジタル化とか、インターネットで配信だとか、そういうふうにもちょっと聞いているのですけれども、市内で映画が年に1回とか2回でもいいので楽しめるように、何か方法がないのかなというのは、私それを一発目に言おうと思っていたら、それをちょっと忘れていましたので、これをお願いします。

あとそれとLED化に関しては、5年くらいでもうもとがとれるという計算をしているのであれば、私は先取りではないですけども、やってやるべきではないのかな。何でLED化が進められているのかと言えば、やはり地球温暖化でもそうだし、そういう視点も大事だし、燕市だけは街灯、市内の街路灯を全部LEDにしているわけですよ。それは、業者組合が自

分たちで組合つくって、そのかわり今の電気代、例えばトータルで100万円かかっていたら、100万円10年間もらうけれども、その工事費は全部自分たちでやるよなどということもやっているのですが、体育館でそれができるかどうかというのはわからないですけれども、ひとついろいろな方法でLED化を調べていくのもあれではないのかなという思いがあります。これは本当、環境審議会でも結構ばんばん出てきたわけですよ。LED化何で進めないのだと。そういう点もありますので、そこをもう1回ご答弁お願いします。

○議 長 教育長。

○教育長 照明器具のLED化については、牧野議員の言われるとおりであると思っています。先ほど部長が答弁しましたように、教育委員会としては、やはり財源のつく、有効な財源のものに合わせてLED化を進めております。今回の八海中学校はLED化を既存の校舎も含めてやりました。あと次が、平仮名でおおまき小学校の統合時についてもLED化を考えておりますし、今後の大規模統合に合わせて進めてまいりたいというふうに思っています。そのほかのものについては、今総務部のほうから既存の照明器具の調査が入っておりますから、多分市全体の施設の中でLED化の調査をし、今後財政と協議しながら、どういうふうに進めていくのかというのは、今準備をして進めているものというふうに思っております。教育委員会の進め方については、今の話のとおりであります。以上です。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 漫画の件につきましては、このような図書購入費ということで、6,750冊の購入ということで計画してございますが、利用者の声を聞きながら、漫画について整備が必要であるかどうか前向きに検討してまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○議 長 教育長。

○教育長 映画の件であります。きょう本当に大きく新聞に出て、私も十日町シネマ何回か通って、もったいないなというふうに思っております。近隣では小出郷文化会館が2か月に1回、名画をやっておりまして、やはり1市どこかで映画を見られることを考えていかなければならないと。それはやはり市民会館、文化会館の小ホールがいいのではないかと。というふうに思っています。先ほど言われましたように、教職員部会がやっているほかに、多分公社のほうでも年に何回かやる企画があると思いますので、できればそれを魚沼市のように定例化できるようにしていくことも、今後検討してまいりたいというふうに考えております。

○議 長 21番・牧野晶君。

○牧野晶君 では、漫画に関して、あと映画に関してはわかりました。

ただ、LEDに関してはやはりちょっと納得がいかないのが、私はこう思いますよ。大規模改修のときにやっていくというあれですけれども、今部長のほうの答弁でも5年くらいでもとがとれると言っているわけですよね。では5年以内に大規模改修がない場合は、今の水銀灯を使っていれば、6年したらもう経費のほうがかかるといことですよ。それであれば、やるべきではないでしょうか。5年以内でやらないところはやっていくべき。私はそう

いうふうに思いますが。そこのご答弁お願いしたいですね。

というのは、何で言うかといえば、やはり今市民要望いろいろあるわけですよ。学校にエアコンつけてくれとかいろいろあるし、その中で例えばそれでもCO2排出減とかしなければいけないわけだし、そういうトータル的なことを考えて、例えばエアコンをつけるに当たってやはり電気の消費が多くなるからLED化するのだよとか、そういうのも1つだと思うし、本当にそういう点をどういうふうに思っているか、もう1回お願いします。

○議 長 教育長。

○教育長 まさに牧野議員の言われるとおりであるというふうに思っております。ただ、我々教育部としては、施策、事業をやるためには予算、補助金、お金を見つけながら財政と協議しながらやっていくというのが、我々の1つの責務でありますので、まずそれを原則にしながら、今度は市全体で総務部と協議し、財政と協議しながら全体的な流れで、5年でもとをとれるのであれば市費でもかけるのか、どうなのかということ、市全体の協議ということでまず教育委員会から市長部局に働きかけてまいりたいと思っています。多分私の情報に入っているのは、既存の学校の照明器具を調べるという今調査が入っておりますから、市長部局もその方向であるというふうに思っております。できれば、市長部局のほうの考えも聞いていただくと助かります。

○議 長 地方創生特命部長。

○地方創生特命部長 LED化につきましては、今ほど答弁ありましたとおりで、全庁に対して既存の灯具、それからLED化された灯具、その状況の今把握をかけているところでございます。特に学校施設につきましては、ご質問にもありました体育館の関係もございまして、非常に多くのLED化によります経費の節減というのは期待できる部署でありますので、その調査を待って、実際に民間の事業者の方を入れながらシミュレーションをつけて、財政部局と相談しながら進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議 長 10番・塩川裕紀君。

○塩川裕紀君 細かいところですけども、ちょっとわからないので教えていただきたいのですけれど、1点だけです。まず215ページの小学校管理一般経費の中の学校鍵管理謝礼が5万円で、221ページの中学校の管理一般経費の中の学校鍵管理謝礼が2万円で、それから247ページの1つ目の丸のすぐ下の、学校開放鍵管理謝礼の37万円という、この金額の差を教えていただきたいのですけれども。

○議 長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 では、ちょっと順番逆になりますけれども、247ページのほうを先に答えさせていただきます。2万円をお支払いしているお宅と、1万5,000円をお支払いしているお宅がございまして、2万円をお支払いしているお宅というのが、体育館の鍵のほか、多分先生方が土日に学校に来たときに教務室に入るための鍵を管理して、2つの鍵を管理している方につきましては2万円。体育館の鍵だけにつきましては1万5,000円というふうなことでお支払いをしております。2万円が5校、1万5,000円が18校ということで、37

万円という金額になってございます。以上です。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 先ほどの長谷川課長の答弁の後に続きまして、学校のほうは校舎棟、職員玄関のほうから入る保管の鍵については1万円をお願いしております。その差額が今のような形で出ております。以上です。

○議 長 4番・吉田光利君。

○吉田光利君 1点質問させていただきます。205ページのちょうど真ん中辺ですが、中学生海外派遣研修事業委託料というのが880万円計上されていると思うのですが、この辺の内容ですけれども、対象者は希望なのか。あるいは優秀な人を選抜するとか、あるいはどこに派遣するのとか、何人くらいの規模なのか教えていただきたいのですが、よろしく願いいたします。

○議 長 教育部長。

○教育部長 今ほどのご質問ですが、中学生の海外派遣事業につきましては、平成30年度で11回目の派遣になります。それは市内在住の中学3年生を対象にしまして、選考試験を行っております。募集をしまして、私どものほうで、教育委員会のほうで面接及び作文の試験を行いまして、選考試験を行っております。今回応募が49名ございました。それで毎年20名の生徒さんを派遣しております。行き先につきましては、アメリカのオレゴン州、ユージーンというところがございます。そちらに行きまして、向こうのほうでホームステイなどをして、語学研修まではしませんけれども、ホームステイでその地域の文化に触れてくるということを目的にしまして、よりグローバルな人材を育てるということで海外派遣事業を実施しております。以上です。

○議 長 14番・佐藤剛君。

○佐藤 剛君 大きくは2点ちょっと質問させていただきます。まず、205ページ。今回の一般質問が教育関係だったので、その続きではないのですが、予算的な面ですので、ちょっと聞いてみたいのですが。ここにALT賃金がありますが、2020年から英語が教科化されるということで、その対応も含めてALT1名増員ということですが、この2018年、2019年は2020年に向けての移行期間ということで、それなりの準備を進めてもいいということになっているのです。当市においては、移行期間の中で2020年に向けての準備を進める体制なのかということ。それに伴ってのALTだと思っておりますけれども、それだったらまた1名でいいのかというところを、本年度は1名ですが、そこら辺の考え方を1つと。

それにあわせて、今の予算の議会ですので、各新聞、日報等を見ますと各自治体の予算状況が出ていますけれども、学校司書を、きょう長岡市でも配置するというような話がありました。当市においても専門の司書を配置するという方針らしいのですが、その予算措置というのは当初の中に入っているかというところを絡めて1点。

もう1点が213ページ、真ん中辺にニート・ひきこもり対策事業委託料があります。これ

は2年前までNPOのほうへの150万円くらいの予算をかけてやっていたのですが、昨年から40万円くらいの中での委託料で進めているのですが、今度40万円に減額している2年目のニート・ひきこもり対策。平成30年も同じくらいの予算ですが、減額しての効果ですね。コミュニケーション能力を高めることと就労支援をしているということですが、40万円くらいでどんなことをやっているのかというところ2点をお願いします。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 ALTの増の、ALT賃金の関係です。昨年まで一応5名プラス、そのまとめ役ということでいつも6名の配置でしたけれども、平成30年度は1名増員いたしました、ここに載っている予算はALT賃金6名分の予算で計上してあります。一応平成30年、平成31年と移行期間、1名増員で様子を見たいと思っております。平成32年度全面実施に向けては、英語の先生のまた配置がどのようになるかにもよりますけれども、一応もう1名プラスというような考え方を少し今考えております。以上です……（「司書は」と叫ぶ者あり）

済みません、続けまして、学校司書のほうですけれども、学校司書は社会教育課の予算の図書館のほうの計上でのせてあります。よろしく願いいたします。

○議 長 子若センター長。

○子ども・若者育成支援センター長 ニート・ひきこもり対策事業料46万1,000円についてお答えさせていただきます。これは、予算説明の中で部長からも説明がありましたとおり、特定の者とコミュニケーションがとれるようになった利用者を対象に、よりコミュニケーション能力を高めるような形をとれるように、コミュニケーションゲーム、軽スポーツ、工作などを通じて行っているものでございます。

効果といたしましては、今まで夢想舎に委託していたときは週5日ほどで150万円ということで実地させていただいておりました。今回については週1回程度ということでやらせてもらっています。これは居場所での想定を利用しているのですが、居場所は子若センターの相談員の中でも居場所対応をしておりますが、相談員ということであると、2週間に一遍程度、面談等を通じて相談等を行っているところになります。その中で居場所の対応といってもなかなか利用者のほうもその切りかえが、今回は居場所の利用での対応、あるときは面談者という形の中の切りかえができない部分がありました。

そこで外部、魚沼伝習館のほうに委託いたしまして、来ていただいて対応してもらっているとあります。その来ていただいている人の人柄もありますけれども、非常にその方が来るときは利用者が多く集まり、その中で私が見ている限りではコミュニケーション能力が高まっているように感じております。以上となります。

○議 長 14番・佐藤剛君。

○佐藤 剛君 ALTの関係はわかりました。あわせて多分、英語指導主事がいらっしやると思うので、そこら辺と相談しながら移行期間の中に、大変な事業だと思しますので、進めてもらいたいと思います。

学校司書の関係ですが、では社会教育のほうで専門の1名増にした予算を今回入れ

たという考え、認識でよろしいですね。それが1点、そこだけ聞きたいのですけれども。

最後のニート・ひきこもりのところにつきましては、そういうように意識を持ってやっていただくと大変ありがたいと思うのですけれども、この部分は本当に外から見えないところなので、継続して、連続をしてやらないとなかなか効果も出ないと思うので、もし私はその予算が40万円の範囲内でやっていくというのではなくて、もうちょっと必要があれば、来年度以降ですけれども、予算をつけながらこういうところは重点的にするべきかなという思いもありますので、参考までに聞かせてもらいたい。では状況だけで結構です。2点目のところだけお願いします。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 学校司書の件ですけれども、図書館運営費の臨時賃金の中に、昨年度は9.5名ということで、0.5名の方は4時間パートでありましたので9.5名ということで計算してあったのですけれども、今年度は11名ということで、1.5名増えております。その中の1名を、図書館に籍は置くのですけれども、学校を主に見ていただく。学校司書ということで、配置をさせていただきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議 長 ここで、先ほど8番・永井議員に対し保留していた答弁について、社会教育課長から発言を求められておりますので、これを許します。

社会教育課長。

○社会教育課長 先ほどの図書館の多目的室の稼働の状況でございますけれども、平成28年が273回使っております。今年度につきましては、336回の利用ということで予定してございます。図書館の多目的室につきましては、プロジェクター等も整備されて使い勝手もいいということで、今後も利用が増えていくものだというふうに考えております。以上でございます。

○議 長 11番・清塚武敏君。

○清塚武敏君 1点お願いいたします。218、219ページの小学校事業運営費の中で、教師用指導書ということで道徳教育がこれまでの道徳の時間が特別の教科、道徳になるわけですが、なかなかこの道徳という面の中は非常に難しい。また、親の考え方やまた教え方にも左右されたり、非常に難しいものだと思っておりますが、指導書だけで先生方に本だけの指導になるのか。指導書をもとに、また教育委員会、文科省といいますか、そういう中のマニュアルがあった中でこれをまた指導していくのか。その点1点お願いしたいと思います。

○議 長 教育長。

○教育長 文科省のほうで道徳の教科化ということで、いろいろ教科が変わるたびに国としては指導書を用意します。それでは南魚沼市は指導書だけでいくのかどうかについては、そうではないという考え方でありまして。指導書を使いながら、今年度から学習指導センターに図書館担当指導主事を入れて、今までの新潟県がやってきた動き、それから南魚沼市特有の道徳の指導について、小学校についてはことし1年間指導主事が組み立て、中学校は再来年度からでありますので、来年度1年間検討しながら、国のやつをベースにしながら、

南魚沼市特有の道徳教育をやってまいりたいというふうに思っております。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 予算書の 207 ページの教育総合支援事業費、これが全て道徳のほうの事業となっております。平成 29 年度から、県から道徳教育の抜本的な改善や充実にかかわる支援事業として県から受託を得ておりますので、この事業が先生方に返されるというか、研修や研究等の費用となっております。以上です。

○議 長 11 番・清塚武敏君。

○清塚武敏君 本当に南魚沼らしい教育を進めていただきたいと思います。議員としてもちょっとこれは可能かどうかわかりませんが、教育委員会としては、新年度からの道徳教育の教科書等はどうなるのか、これからなのか。その点だけちょっと教えていただければと思います。

○議 長 教育長。

○教育長 教科書については、小千谷市、魚沼市、南魚沼市、湯沢、4 自治体が集まりまして、教科書選考ということで、5 社か 6 社の中から教科書を既に選んでおります。ということで、その中には教育委員だとか教師だとか保護者の代表等も入って選考しておりますもので、いい教科書を選べたというふうに思っております。

○議 長 7 番・勝又貞夫君。

○勝又貞夫君 きのうに引き続き、恐る恐る、控えめな質問を 3 ついたします。205 ページ、今ほど 4 番議員から質問がありましたが、中学生の海外派遣事業についてですけれども、ことしも例年と同様のやり方でやるのか。同様のやり方であるとすれば、例年 804 万円の予算であったものが 880 万円になっていると。ずっとさかのぼって見たのですけれども、804 万円の予算を組んだことが 5 年ほど続いてありました。その間の決算の金額が 760 万円前後と。そうするとおよそ四、五十万円のお金が毎年残っていたわけでありまして。平成 28 年の予算決算を見ると、804 万円の予算に対してこのときはちょっと安く上がったのですね。同様のプロセスであったらしいのですけれども、656 万円と。例年よりも 100 万円も安く上がったと。これについては飛行機の燃料代が大分変わったというようなお話がありましたけれども、この全体の流れを見たときに、なぜ同じような内容で 880 万円という予算が組まれたのか。ちょっとどうしてかなと思ったもので、お尋ねします。

2 つ目、213 ページ、今ほども質問がありました、ニート・ひきこもり対策についてですけれども、減額の事情については私も知っています。委託先については今お話があったので、それはそれでわかりました。近年の予算決算を見ると、予算にして平成 24 年だったでしょうか、平成 25 年だったでしょうか、以前は 800 万円という予算がついていたことがあったわけです。800 万円、600 万円、400 万円、150 万円と、どんどん減額になってきていると。決算にいたっては平成 28 年度の決算で、以前の決算と比べると実に 29 分の 1 と。ニート・ひきこもりという問題については、国家レベルの社会問題だと。右肩上がりに増大していると言われる中で、我が南魚沼市の予算決算を見たときに、着実に右肩下がりであるという事実が

あるわけであります。なぜこうなのかと。このままでいいとお考えなのか、それとも別の対策をとるべきだと、そういうふうにお考えなのか。この予算決算の数字を見る限り、どうしてかなとそう思うので、質問いたします。

3つ目、237 ページ、図書館の業務委託料、これは真ん中よりちょっと上ですね。図書館の業務委託料、これは文化スポーツ振興公社からの出向の方が今まで2名いたと。それが1名引き揚げて1名残ったというお話がありました。近年ずっと1,200万円レベルで予算が組まれていたのが、ことしは640万円と。これについてはわかるのですが、オープンして既に3年9か月が経過しているわけですから、普通の民間経営の感覚で言うならば、文化スポーツ公社のスタッフはそろそろみな引き揚げてもらったほうが、全体の運営の中でのコストを引き下げることができるのではないかと。なぜ1名残したのか、その辺のことをお尋ねします。以上3点です。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 海外派遣についてお答えいたします。今回、中学校海外派遣事業で880万円計上させていただきました。その内訳は、今までのその場の、そのときの情勢にもよるのですけれども、一応1人頭44万円の20人分ということで計上してあります。今回このような形でのせました。今までは、参加者20名のうち個人負担分が10万円ございます。その10万円は直接保護者が業者さんのほうに支払うような形で、その分を減額させて計上しておりましたが、今回、個人負担分を減算せずに、歳入のほうに計上してありますので、このまま20名分を委託料としてのせた理由でございます。以上です。

○議 長 子若センター長。

○子ども・若者育成支援センター長 ニート・ひきこもり対策事業についてお答えいたします。勝又議員がおっしゃるとおりに、夢想舎への委託につきましては平成22年度、平成23年度で最大1,000万円、平成24年度で800万円ということで、その後だんだんと減額し、最後、平成28年度で150万円という決算になっておるかと思っております。ニート・ひきこもり対策事業に市のほうで力を入れていないというわけではございませんで、当初、平成21年度始まったときは、子ども・若者育成センターはございませんでしたので、商工観光課のほうで夢想舎に委託し、ニート・ひきこもり対策事業を行っておりました。平成23年度に市でもニート・ひきこもり対策事業、子供さんの対応を含めてになります。そういったところに力を入れていかなければいけないということで、子ども・若者育成支援センターを立ち上げました。当初立ち上げましたときには若者の相談員等はまだまだ少なく、その部分がまだ金額的には少なかったと思っておりますが、その中で並行して夢想舎にも引き続き委託をしていたところでございます。

現在に至りましては、平成25年度に、若者担当に対応する臨床心理士を市のほうで正職員として雇いました。現在そのほかにも若者相談員は4人いらっしゃいます。その人件費だけでも800万円ほどとなっております。そのほかにも事業費等もつけておりますので、決してニート・ひきこもり対策事業に市が消極的ということではなくて、逆に力を入れてきている部

分だと思っております。以上です。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 図書館の公社職員の1名減ということでございますけれども、この理由が、今、公社の管理のほうのトミオカホワイト美術館、それから牧之記念館ということで、2館合わせて公社職員1名ということで運営をされております。ただ、公社職員1名、臨時もおりますけれども、企画・運営、展示がえ等々、お1人の正職の方で行っているということで、非常に負担が大きい。各美術館1名体制という、2名体制の正職で行いたいということ公社さんの要望がありまして、図書館のほうから引き揚げて配置がえということでさせていただきたいということでございます。図書館の残った1名の公社職員ですけれども、図書館司書の資格を有してございまして、図書館の運営上どうしても欠かせないということで、残っていただいておりますということでございます。図書館のほうの公社職員1名減のかわりにつきましては、市の正職を1名追加配置されるということになってございますので、その辺の来年度は体制で運営をしていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○議 長 7番・勝又貞夫君。

○勝又貞夫君 3つお答えいただきました。おおむねわかったのですが、一番最初の中学生の海外派遣事業についてですが、私の知る限りは、オレゴン州のユージーン市を繰り返し訪問しているようでありまして、ずっとこれをやり続けると何かワンパターンになりはしないかと、そんなふうに思ったりもするわけです。海外に視点を向けるということは非常に重要なことだし、また、別の視点で日本を見るということもいいことだとは思いますが、例えばほかの国は考えられないかと。オーストリアのセルデンとか、ニュージーランドのアッシュバートン、セルデンやアッシュバートン、そういうところにまた派遣してみると。行き先を変えてみるというのもまたいいのではないかと。繰り返し同じことをやれば、やるほうは楽なわけです。いつものように。いつものようにそのパターンでやればいいということでしょうけれども、別なところに向けて出かけるということは、また別の勉強もできるわけです。そんなことで、行き先についてずっと同じパターンでやるおつもりか、それとも変更もあり得るというふうにお考えなのかお尋ねします。

○議 長 教育長。

○教育長 議員のご指摘については、もっとも部分があります。それでは今後、市はどういう体制をとっていくかということですが、行き先について検討を始めております。11年目ではありますが、再来年度に3回目の、オレゴンから交流をやっているホストファミリーを受けてもらってきた方が来ていただきますもので、今のところ、それをめどにオレゴンの派遣先については終了し、次からは違う部分ということで、既に今言われた候補地も含め検討に入っております。ただ、言わせていただくと、1回の海外派遣で大きく変わるわけではありません。だから行政としては、安全にかつ子供たちが帰ってこられて、それが高校へ行ったり大学へ行ったときに、その第一歩となるきっかけをつくりたいということでやっております。決して楽をしたいということではなく、子供の安全と今までの10年間の積

み上げをきちんとやりとりしながら節目をきちんと迎えながら、次のステップに移りたいというふうに考えております。以上です。

○議 長 3番・目黒哲也君。

○目黒哲也君 242、243の1つ目の丸の2段目の、南魚沼市文化スポーツ振興公社の件で1点お伺いをさせていただきます。昨シーズンからことしのシーズンにかけて、冬の坂戸山登山の方々が非常に多くなってきております。その来た方々の駐車場の件でございます。雪が降る前ですと、登山口と山の家には駐車スペースがあるので、それでも足りない日もございますが、十分稼働はしているのですが、冬になりますと、登山口と山の家が積雪によって駐車場にとめられないということで、市民の方々は大体ディスポートの駐車場に自然ととめさせていただいております。市外の方、県外の方々ですと、登山口まで来てとめられないので、周辺を探すとディスポートの駐車場があるということでとめると、よく聞いております。特に平日はさほどではないと思いますが、最近土日が非常に多くて、祭日も含めてですが、そうしますと多分ディスポートのほうも土日・祭日の利用者は多いですし、大会もあつたりして、先日、寺口議員もおっしゃっていますが、非常に駐車場がとめられない状態だという状況になってはおります。それでけさですと、私の記憶ですと始めてなのですが、けさ駐車場に、3月17日は大会があるため、この駐車場はディスポート使用者のみの利用ですから、17日は利用できません、みたいな感じの掲示を初めて見たのです。それは気持ちもわかるのですけれども、来た方がそこへ行ってとめられないとなると、ではどこに行けばいいのだということで。あの辺の路肩に駐車をすると非常に迷惑になりますし、多分そういうことは登山の方々もしないと思うのですが、来たときに、そのあともう1個、どこどこにとめてくださいとか、どこどこという案内があればよろしいのですが、それで「とめられません」で切られていると、どうなのかなというのを感じたわけでございます。

6年くらい前から、坂戸山を愛する方々の有志で冬の坂戸山を売ろうということで、この地域、雪で売っていくということもありますので、道つけをしたり、山頂からの雲海の写真を撮ったりしながらSNS等でPRしたり、その活動が認められまして、NHKの全国放送になったり、県内の番組特集に取り上げられたりしているところでございます。そういうところで私が聞いた中でも、ことしでも遠い方で兵庫の方とか、名古屋の女性のお客さんが大分登っている日もありました。そういった部分の観光もございまして、あとつい先週、低山登山の健康増進ということで、テレビでも低山登山は非常に心肺機能も高めて、あとは下半身の筋力アップになるということで、生涯スポーツにもこれから十分生かせる山だと思います。また、小学校、中学校、高校生の運動部の方々も坂戸山に来て、一生懸命下半身のトレーニングを最近やっている子供たちも多いです。また、土日ですとファミリーのお子さまとお家の方々と一緒に登ってきて、非常にほのぼのとした感じも自分ながら感じておりますので、ぜひそういう部分で駐車場を何とか冬の間も確保できないかなということで、お伺いさせていただきますと思います。

○議 長 教育長。

○教 育 長 目黒議員が言われますように、坂戸山は南魚沼市の宝でありますし、冬場の活用、雲海の眺め、十分検討してまいりたいというふうに思っております。それで今後、市全体の中で検討してまいります、一番私が今考えるのでは、ふれ愛支援センターの駐車場は消パイが効いておりますし、その辺の活用が重なるのがどうかということを含め、あそこだとディスプレイとの距離はそう変わりません。それと今回17日にディスプレイでフロアホッケーをやるときに、いっぱい集まるから駐車場を六日町小学校にとめてということもあります。六日町小学校から坂戸山ということはちょっと遠い距離ではありますが、南魚沼市の眺めを見ながらというプログラムをつくりながら、より近いところにストーリーをつくりながら、来る方に丁寧な誘導を今後速やかに検討してまいりたいというふうに思っております。

○議 長 16番・中沢一博君。

○中沢一博君 1点のみ質問させていただきます。203ページの閉校記念事業補助金であります。感情を抑えて質問させていただきたいと思っております。これはあえて財政、当局にお伺いさせていただきたいと思っております。この長い歴史に幕を閉じる閉校式典であります。昨年度、中学校には100万円の予算がつきました。今回いろいろ頑張ってもらって、50万円に落ちたところから教育部門で70万円まで上げていただいたというふうにも聞いております。なぜ70万円なのか。いろいろ財政が厳しい中、どこかを抑えなければいけないというのはわかります。そして実際に改装費も多くかけて、2億円以上のお金もかけていただく。また、学童保育もつくっていただく。そういう部分も重々承知しております。ですけれども、この地元の長い歴史の中で1つの幕を引くといいうのは、大きいことである。一生に一度しかない部分であります。なぜ70万円に予算が低減されたのか、お伺いさせていただきたいと思っております。

○議 長 教育長。

○教 育 長 統合協議会において、閉校記念式典については、地元と密なる協議をしております。約束したわけではありませんが、たたき台の中で、閉校1校については今まで200万円という流れから八海中学校は100万円ということできましたから、1校100万円ということで検討し、頑張ってみるといいう話は統合協議会の中で話をしました。約束したわけではありません。その中で、大巻地区の状況について、昨年度3校統合の中で、地域としては地域負担ということで、そこでもお金を出しておりますから、2年続く閉校式典について、地元のお金が大変だよというのについて話は聞いております。その辺を題材にしながら、市長部局とはそういう状況もありますからということでお願いをしてきました。財政のほうの指示というか、検討については、今までやった中で削減だとか工夫をする部分はあるのではないかという話でありましたので、具体的に提示されたのは、記念碑とそれから印刷製本費の発注の仕方とを提案されました。我々もなるほどなという部分がありましたので、その線に沿って地元と協議し、地元としては70万円で何とか行けるという方向で、今のところ進んでおります。ということで、詳しい状況までお話をさせていただきましたが、地元の思いを聞

きつつ、市の財政を考慮しつつ、今の結論に至ったということでございます。以上です。

○議 長 16番・中沢一博君。

○中沢一博君 行政当局が70万円で頑張ってくれと言え、私たちの地域の人間性からいって、それは頑張ります。でも、地元では昨年度、あの中学校を、みんなの総意の中で150万円から100万円にさせていただいて、そして大成功のうちというか、本当に市長も参加していただいたと思うのですけれども、閉校式にはあれだけ涙が出るような、そんな状況もありました。今回の卒業式でも、校歌を歌うときは感無量でありました。そんな思いをして長い歴史に記念というか、そういう式典で閉校を迎えるというのに、私はこの何十万円という予算を組まれないような、そういう姿勢に私は憤りを感じるのであります。地元はそういう予算で最初は頑張ろうと思っていたのですよ。でも、言われればそういうふうにしますよ、正直言って。でも、地元の思いというのはこういう数字、お金だけはないけれども、では思いというものをどういうふうに執行部は感じているかということ、私は聞きたいのであります。これは1足す1は2ではない部分かもしれないけれども、そういう予算に満額でもつけられるような、そういう行政になってもらいたいのです。一生に一度ですよ。はたや、こんなことは言いたくないけれども、内容が決まっていなくて予算をつける。だから、こうやっていろいろ問題が出てくるのですよ。言い過ぎかもしれませんが。私は地元の思いとして、やはり執行部のやさしい思いというものを形にして今後出していただきたい。お金だけではございません。一生懸命これからの分もやっていると思いますし、一生懸命していますけれども、そういう部分でちょっと言い過ぎの部分があったかと思えますけれども、私はでも言わないではいけないのです、はっきり言わせてもらえば。そのことだけをお伝えさせていただいて、皆さんの成功のもとで大成功の閉校式典をしたいと、そう思っております。何かございましたら市長、私の見解で言葉足らずでしたらお伺いしたいと思います。

○議 長 市長。

○市 長 議員がおっしゃることはよくわかります。予算もつけた。それが少なくて。もしくは先ほどの教育長答弁で、最初に示し、多分こういう値段でという示されたものを地元の人が考えてくださって、そこが低くなった、そういうことに憤りを感じる。そういうことはあるかもしれませんが。しかし、考えてもらいたいのですね。五十沢の小学校のときも50万円という前例があります。そして、これからまさに我々がたどっていかなければいけない道として、これからも閉校記念を迎えるところはたくさん出てまいります。そういったときに予算は、思いはわかりますよ。悪いのですけれども、思いがわからなくてこういう値段だというわれ方は、私はちょっと——ちょっと言われ過ぎかなという思いがしています。わかりますが、例えばその実施の内容が、果たしてそういうことではなく、もうちょっと前向きに考えてもらえませんかということも、多分やりとりがあったと思います。その中で皆さんから、いろいろあるし、全部やりたい。しかし、ここはやはり我慢していただいた。そういうふうな結果だと思っていますので、どこもやはり閉校記念はこれから迎えるところが統合の中であり、市も限りある財産であります。その中で皆さんにやはり納得もしていた

だく道筋を、前例として五十沢はつけてきたわけですから、その中で皆さんからもよくよくお考えもいただきたいという思いであります。気持ちは十分わかります。以上であります。

○議 長 16番・中沢一博君。

○中沢一博君 承知いたしました。私は市長の思いというものを、地元の皆さんもわかっていただく中で、やはりみんなして最後は本当によかったなという、そういう式典をつくっていきたいと思います。お金だけではない、今の市長の思いというものを大事にしながら、私どもも、そうなのです、お金だけではないのです。だから、私はその思いというものがどうだったかということをお聞きしたのです。ですから、私はそういうもので、これから予算のつけ方云々というのを、いろいろ財政の厳しいのも知っておりますので、そういう部分をしながら大成功の式典にまたお世話になりますが、一緒にやっていっていただきたいと思っています。以上でございます。

○議 長 15番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 5点ほどお願いしたい。239ページの文化振興補助事業費でありますけれども、前年度より30万6,000円ですかね、南魚展への補助金が消えたということであります。文化振興補助ですけれども、教育予算少ない中でも特に文化振興についての予算が少ない。これは、合併してからの南魚沼市の課題であったわけでありましてけれども、その中でも教育長もごらんいただきました雪譜まつりでの雪中歌舞伎でありますよね。ああいったものはお金を出すからやってくれというような形ではないわけです。自分たちがやりたいのだ、こういうのをやりたいのだと。それについて、ちょっと応援をしていただけないかという団体が多く活動しているのだと思います。そうするとこの部分についても、南魚展いろいろなご事情もあったと思いますけれども、そんなのを含めて振興補助事業については、ひょっとしたら今年度いろいろなそういう取り組みがなされれば、補正をつけてでも頑張っていきたいのだというお考えでの予算づけなのかを、ちょっとお聞きしたいなど。

それから245ページ、スポーツ推進事業費、総合地域型スポーツクラブですね。前年度よりも108万円ほど増えたということで、スポーツパラダイスともう一つの新しいクラブを立ち上げるということでもあります。スポーツパラダイスは多分650万円変わらないと思うのですが、新しいところは108万円とすると、立ち上げと言っても、恐らくこういうようなクラブといいますか、やりたいのだというところで考えている部分があると思うのですよ。新しいクラブのほうでね。そうすると、どのようなメニューがあって108万円くらいになったのかなというところをちょっとお聞かせ願いたいなど。

それから249ページ、一番目の丸、体育施設管理委託です。前年度とほぼ総額は変わらず、特に委託料は変わらずですけれども、今度は4つ、BMS、公社、ベースボールマガジン、モンスターパイプと4者に行くわけでありましてから、今度は一体それぞれ幾らくらいずつになったのかというところを、ちょっとお聞きします。

それから、その下の3つ目の丸の体育施設整備事業費、同僚議員からも聞きましたけれども、要はナイターですね。多分1基ではだめで2基つけて球を何個、先ほどのLEDの話で

はないですけれども、球を何個つけてというところまで考えての予算組みでありましょうけれども、その辺ちょっと事情をお聞かせ願いたい。

それから、253 ページ、大和学校給食センター大規模改造と給食センターの委託事業に関してでありますけれども、大和学校給食センターは毎年予算をつけながら、修繕をしながらやって、いよいよ平成 30 年度の民間委託に向けての、ほとんど修繕が終わるのではないかなと思っています。六日町、塩沢のほうを業務委託したわけでありますから、この辺の反省等々もあったところを含めて、平成 30 年度に大和学校給食センターのほうの民間委託がそろっと始まるのではないかなと思いますけれども、そこら辺をこの予算を見る限りではないのですけれども、その辺の考え方をお聞きします。

○議 長 社会教育課長。

○社会教育課長 文化振興事業でございますが、議員ご指摘のとおり、今年度は南魚展の 50 回記念展ということでございましたので、その分の補助金が減っているということでございます。来年度は通常の美術展等の補助ということになります。これにつきましては、文化振興は非常に大事なことですし、平成 28 年度については、会津と越後を語る会等の補助金も出しております。そういうことで、その都度、必要があればこの部分については対応してまいりたいというふうに考えてございます。以上です。

○議 長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 2 点目の質問でありました、スポーツ&ライフのメニューでございますけれども、既存のスポーツパラダイスがディスポートを中心にした中、教室がほとんど。プールの教室もかなりやっているということで、既存の施設を利用したものがメインということでしたけれども。スポーツ&ライフにつきましては、旧塩沢地域、ベースボールマガジン社さんが主体となりまして、トレーニングセンターであったり、大原運動公園を使ったというふうなことで、トレーニングセンターはまた新しい器具等も入りましたので、そちらを利用したもの。また、すみ分けというような形の中で、基本的には外のものを考えております。またスポーツ&ライフが立ち上がる前に、大原運動公園の中でヨガ教室ですとかやっております。非常にその部分につきましては評判がよいというふうなことで、既存の事業の継続もございます。そういうような形で、基本的にはかぶらないような形で考えております。

それから、内訳につきましてはですけども、ちょっと公社さんのほうが、足し算しないとわからなくて申しわけないのですが。大原運動公園の今年度の委託料が 1,800 万円でございます。それからモンスターパイプが 970 万円、それからトレーニングセンターは、最終日に指定管理者決定するわけですが、こちら 550 万円ということで見えております。あと、残ったものが公社さんのもろもろの施設ということで、ちょっと電卓たたき始めたところで答弁になってしまって申しわけないのですけれども、その差額の部分が公社さんの分というふうな形になります。

あとそれから、モンスターパイプのナイター照明ですけども、議員のほうから 1 基、 2

基というようなお話があったのですけれども、柱の数はもっと多くなります。延長が200メートル近くの長さになりますので、ちょっと1基、2基で全てを照らすということはできませんので、ある程度の基数にはなります。ちょっと10基だったか8基だったか正確な数字は覚えていないのですけれども、ただ、あまり柱を多くしてしまいますと、周りからまた雪入れをやるときにその柱が邪魔になってしまうということで。極力柱の数は少なくしたいけれども、ただ、そうしてしまうとやはり照らす範囲がスポット的になってしまうということで、そこはうまく落としどころを見つけなくてはいけないかなということでございます。ちょっと今現在は詳細なものを持ち合わせてございませんけれども、そのような考え方で整備を進める予定でございます。以上です。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 大和給食センターの大規模改修工事費です。毎年、かなり老朽化しておりますので、順次改修工事を進めているところでありますが、今回、平成30年度、一応屋根と外壁工事等も含めた形で計上はしたのですけれども、なかなか財政難ということで、屋根の修理のほうは応急処置で済みましたので、今回メインは配管改修工事のほうをメインで今年度はやりたいと思っております。それで委託の関係ですけれども、六日町と塩沢の給食センターが平成29年度から始まりまして、3か年の委託契約となっております。そうなりますと、平成32年度、29、30、31ですので、平成32年度からまた新たな委託事業が始まりますが、その様子を見ながら大和もどうしていくか。今、市部局とも相談をしておりますが、やるとしても3年の契約が終わって、今度3センターを一緒にやるか。もしくは、またもう1年ずらすかという形の今そういう検討の段階で、はっきりとは決まっております。2つのセンターのほうは、1年やりまして、今検証も含めて、いろいろ先生方とか保護者のほうにもアンケート等をとって、一応問題ないという形で今進めておいて、今度は2年目に入るわけですが、大和のほうも含めながら、自校給食のほうもありますけれども、そこら辺を考えながら、これから検討を進めている段階で、今のところ何とも今応急手当をしながら、大和給食センターも継続していく形で進めております。以上です。

○議 長 15番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 文化振興のほうでありますけれども、毎年その都度いろいろなものが出てくればということで対応ということで、それでいいかなと思いますけれども。米沢のほうで直江兼続の400回忌ですかあると。それに合わせてうちのほうも、本当に民間のほう何かいろいろな文化振興にあわせた事業が出てくるかと思っておりますので、その辺も情報をつかんでいれば速やかに対応してもらいたいと思います。

それから、245ページの新しいスポーツクラブでありますけれども、BMSが現在大原でやっているものに合わせて、外のメニューということでありますけれども、そうすると金額的に言って、スポーツパラダイスは670万円のこちらは100万円となると、新規の部分も相当細かなメニュー出してきて、それで予算づけをしたのかなと思ったのですよ。これからだということであれば、言ってみようもありませんけれども。そんなところも、そんな大風呂

敷を広げることはなくて、トレセンの施設等々でやれるものになってくるのかななんて思っていますし、大原でいけば、BMSでテニス教室も始めました。そんなところまで踏み込んでいってくれるのかなというのを期待していますので、それこそ、これも雪が解けてからの話なので、また情報があれば速やかにキャッチをして対応していただきたい。

それから公社のほうへの残り部分とありますけれども、分散をしていく形の中で、それぞれ専門性が出てきたので、それはいたし方ない部分もありますけれども。私はモンスター、トレセン等々については、できればBMSで一括して受けて、その中でミズノスポーツ、それからベースボールマガジンがくっついていきますので、いろいろなスタッフが来るので、そんなところもあるかと思いますが。これは、将来的に流動的になる可能性を含んだ分社化といえますか、だと考えていいのかというのを、ちょっとお聞きしたいなど。

ナイター照明については、要は照明の球、球の数ですよ。値段にしても。普通に滑るだけであるような光、明るさが必要なのか。あるいはナイターで、今度は大会等をした場合について必要な明るさ等々が出てくるわけでありまして。そこはしっかり吟味をして、あとからまたつけばいいというものではないので、あれについてはね。これについては言いたいことがいろいろあるのですよ。ですけれども、そこら辺がきちんとして中ではやられるというような工事であればいいのですけれども、どうもまだという部分があるので。ちょっとこの辺もしっかりやってもらいたいなというのがあります。

それから、給食センターについては了解をしました。以上です。

○議 長 生涯スポーツ課長。

○生涯スポーツ課長 先ほど答弁できなかったのですけれども、モンスターパイプのナイター照明工事、LED40灯で今予定しております。柱の数につきましては10本で計画しておりますので、両サイドに5本ずつというふうなことでございます。当然、光量につきましては、支障がないレベルということと考えております。

あと、指定管理の分社化につきましてですけれども、以前であれば、もう受け皿としては公社さんしかなかったような形ではございましたけれども、これからはいろいろな受け皿がまた出てくる中で、ただ、うちのほうで指定管理に出している施設というのも20幾つあるような形で、全てを小分けにして出しますと、非常にまた事務手間の部分もあります。方向性が似ているといいますか、そろっているようなものを組み合わせて、また指定管理、ことしの秋に今5年サイクルの、5年目が来年目になりますので、ことし、新年度の秋には、今のBMSそれから公社さんが請け負っている部分を一旦切りまして再募集というふうな形になりますので、その際にどういう組み合わせにするかというのは、今後また検討させていただければと思います。以上です。

○議 長 15番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 分社化の部分については、非常に多くの、社会施設がうちは本当に多いのですよ、多過ぎるくらい。なので、そこをどうするかというのを、この秋にということはおわかりました。

あとはないかな、ですね。以上。

○議 長 あと何名くらい質疑を予定しておりますか。挙手願います。

[挙手あり]

1人。1人であれば続けていきます。

20番・塩谷寿雄君。

○塩谷寿雄君 市長にお伺いします。205ページの共通リフト券でございます。市長、スキー畑ということで、井口市長もスキーは若いときやられたわけですけれども。こういったことを一般質問や予算、決算等で私も言っていますし、今回8番議員からも一般質問で出たわけですけれども、ボトムを広げるということで、リフト券の問題は常々言っていて、私になればちょっと変えていくというような形を多分聞いたような覚えもあるのですけれども。非常に予算が250万円と、1人に対して2,000円の補助ですけれども、決算を見ても同じような8,000円プラスくらいの決算で平成28年度は出ています。けれども、やはりこういう子どもたちが大人になったときに地元の宣伝マンになってくれるわけで、ボトムアップをしていただきたいというのがあれですけれども。リフト民間会社がやはり不正をとということで、なかなかここが踏み切れない一番の原因と聞いてはいるのですけれども。予算をこれは補正でも何でもまた盛っていった上で、冒頭で払う予算であれば、スキー場も運営する前にこういう予算でということが大体出ていますので、そういうことを考えた上であれば、ではよしとするのか。いろいろその辺を今度取り組んでいていただきたい。答弁でも、いろいろ保護者から今度おじいちゃん、おばあちゃんまでのということを行っているのですけれども、そこはちょっと最低くらいの段階で、もっとここを広げていく。いろいろな人も滑れるというようなリフト券を、やはりやるべきではないかなと思っています。その点についての意気込みをお聞きしたいと思います。補正もつけられるかどうかというような意気込みをちょっと聞きたいと思います。

小学校、中学校の備品購入費ですけれども、いろいろな要望が各学校いっぱい出ていると思うのですけれども、それがトップ3くらいが出ているのか。全部細かいところまで10や20というような感じで、学校からこういうふうには要望が出ているのか。そうだとすると、学校側の1番、2番、3番のベスト3だと学校側ですよ。だけれども、保護者とか生徒とかだったら、もしかすれば違うほうがその順番の中で1番になることがあるかもしれないですよ。そういう中を見た上で、見に行っているとは思っているのですけれども、見に行っていなかったら、見に行ってもそういうランクとかを、これは本当に必要だとかというようなランクを備品の中でつけているかどうか。大規模の改修のプール改修とか、大きい予算は出ていますけれども、そういう本当の備品の中で、部活のあり方の考えとか、またいろいろ出てきている中で、そういうことをやっているかどうかということをお聞かせいただきたいと思います。

もう1点、3点目が、市長が大会議室で、あれは何会議でしたっけね。ちょっと教育部門の会議があったときに、学校教育課を市民会館の2階に持ってくるという話をその会議でしたと思うのですけれども、その辺の予算の説明で話がちょっとなかったかなと思うのですけ

れども、2階のほうに移るかどうかというのは。その辺がどうなっているのかという、ちょっと確認をしたいと思います。

○議 長 市長。

○市 長 まずは市民のリフト券、そのことでいいですよ。これは学校の教育のところはこの項目が295ページにのっていますが、これはもうこれでいいのだと思います。おっしゃるのは、市民向けですので、別のところののつかるのでしょうけれども、今の市の財政では学校の生徒さん、児童にやっている保護者の方、保護者は負担していなかったか、保護者はしていないね、そうですね。要するに子供たちの負担の部分というような考え方の出し方は、今の市の財政では難しいと思います。しかし、もしやるとすれば、稼ぎ出した中からやらなければいけないのではないかと思います。先ほど違う方の答弁の中で言いました。やはり財政は厳しいです。ずっと縮めているわけですから。この中で新たなことに取り組むというのは非常に厳しいです。はっきり言って。だけれども、稼ぎ出した中からそれを充てていく。そして市民の健康増進につながる面、そしてこの地域性、さまざまなやる中では十分考えなければいけないのではないかという思いを、一般質問等の議論も経て非常に強く思っていますが、これはまだ市内の統一の見解では全くありませんので、そういう思いを持って調整していきたい。決して、シーズン券、どなたかとの一般質問でやったように、シーズン券を出してください。我々だけではなくて、今経営をされているスキー場の関係者の皆さんから言うと、むしろそういうのは嫌だという方向性なのです、どちらかという。それは実際です。だけれども、こちらの話の持っていく方、そして我々の思い、そういったものを語りながら、こちらもやって、向こうにも同等に頑張ってもらいたいということしか取り組めないと思いますので、前向きに考えてみたいと思っています。

もう1個あった。教育部を市民会館に、今大和にある教育部、学校教育課、また教育委員会を市民会館に持ってきたという話は、市の教育会議の一番最高の会議であります。今は法律が改正されて、市長が議長になるわけですがけれども、この中で方針を話しさせてもらいました。必ずやりたいと思います。今のままではいいわけがないというふうに私は思っています。これは、できれば新年度中にやりたい。当初予算には出ておりません。これらを語りながら、当然かかる経費等については補正で提出をさせていただきたいと思っています。

○議 長 学校教育課長。

○学校教育課長 学校の備品についてです。一応、教育振興費の中に備品購入を入れております。予算を組むときに、各学校に要望をとります。その中で、配当外として備品購入のほうを各学校から要望を上げていただきます。学校から上げていただきますので、学校の中で揉んでいただいて、優先順位一応3番までという形で3つほど上げていただいた中で、学校教育課の中でまたさらに検討させていただいて、その中で今回購入できるもの、これはちょっと見送りかなというのを再度検討した上で、予算計上を財政との協議のほうで上げております。その中でまたさらに削られたり、うまく盛られたりするものもありますが、学校としては見送られたり、今回買っていただくものもあつたりと、それぞれありますけれども、

学校の順位も偏らないように、全部の学校に配当できるような形で予算計上は考えておりますが、なかなか思うようにはいかない。優先順位の高いほうからという形で、今のところさせていただいております。以上です。

○議 長 教育長。

○教育長 塩谷議員の質問の中で、2点追加でお答えします。教育委員会、学校教育課のほうで、全ての学校まで行って要望の備品等、古いやつを見ているかということについては、よほど大きなやつは見ていますが、見ていない状況が多いのがあります。そして、学校から出る要望について、保護者に聞いて、子供たちに聞いて立ち上がってきているのかどうかについては、一応学校のほうにお任せしていますので、そういうことまで丁寧にやっている学校もあるかわかりませんが、その辺について教育委員会としては確認しないのが現状であります。今後、必要があれば、やはりそういう丁寧な進め方も必要ではないかというふうに思っております。

○議 長 20番・塩谷寿雄君。

○塩谷寿雄君 攻める行政ということで、市長もいろいろ取り組んでいるわけなので、ふるさと納税もすごく調子がよくて県内トップをとったわけですけれども、しっかりやはりこの辺は、行政は強く言っているというような答弁を今までは聞いているのですよ。やはり民間側のスキー場からということで、だめだということが一番の大きな要因だということが、いつも答弁では出てくるのですけれども、やはりその話の持っていく方だと思っておりますので、その辺はうまく取り組んでいかなければいけない問題ではないかなと思います。

スキー授業が少ないのではないかと言う保護者も多かったり、麓に住んでいる子供だったら歩いて行けるのですけれども、やはり送迎があると、部活等もそうですけれども、非常に連れて行ってはやりたいのだけれども、なかなか大変だというような話の中で、いろいろまた行政ができることというのは、リフト券もそうだし、いろいろなこういうバスの運行とかもそうだし、そういうことでやはり考えて、健康増進もそうです。本当に営業マンになる市民のスキーヤー、ボーダーをつくっていただければというふうな考えですが、その点もう一度何かありましたらお聞かせいただきたいと思っております。

学校教育課にお尋ねいたしますけれども、トップ3つが出ているということで、今後そういうことも必要ではないかというような答弁もいただきましたけれども、やはり全部洗いだして1校を見てもそんなに時間がかかるわけではないので、やはり学校教育課のほうが目を見て、これはやばいなと。実は5番目のランク、6番目のランクで上がっているものが、これは早くしなければいけないのではないかというような部分も絶対出てくると思うのですよね。

なので、皆さんがやはり見ていただくということが、一番大事ではないかなと思います。学校の中の要望というのはわかるのですが、その金額によってできないものとかもあるのだけれども、本当に直さなければいけないものとかあると思うので、やはり行くべきだと私は思うのですけれども、その辺また新年度に対しての取り組みを聞きたいと思っております。新規で

は、やはりトイレ、空調設備というような要望もどんどん上がってきている中で、これからの学校教育課の対応というのは非常に大変にもなるのだけれども、やはり自分たちで足を運んでその現場を見るということが非常に大事ではないかなと思うのですけれども、その点について答弁いただきたいと思います。

○議 長 市長。

○市 長 今ほどの意見、本当にもっともだと思えます。一生懸命取り組ませていただきたいと思えます。一般質問でやったとおり、ちょっとまた繰り返しになってしまいますけれども、例えばシーズン券だけではなくて、回数券、要するにスキー場に足を運び、自分のふるさとのいろいろな産業をというか、自分の健康増進も含めて、そして子供たちは、なかなか忙しいお父さん、お母さんが多いわけで、シーズン券を買うほどまでのことはないけれども、スキー場に行ってみたいという人もいっぱいいるわけです。そういう声も聞いていますので、そういったこと。おじいちゃん、おばあちゃんが連れていくという例もあります。先ほどの答弁もこの間もしましたが、学校側の、生徒さん、児童さんにやっている券も、保護者の親、これはお父さん、お母さんに限られていましたが、お父さん、お母さんがいない子供もいます。そしておじいちゃんやおばあちゃんが連れて行かなければいけないという子供もいるわけで、その辺をフレキシブルに、固定的に考えずに何とかお願いできませんか。これは昨年暮れからも言っていますので、その辺の運用の、現実を見た、またちょっとやさしい、そういう運用の仕方等を一生懸命、スキー場協議会の皆さんともやりたい。もう一つは、前から私も議員の時代か思っていた点、これはお願いいっぱいことになって申しわけないのですが、ぜひ議員の皆さんもそういう交渉するような——交渉というのですかね、いろいろな意思疎通を図るような議連と言ったらいいのでしょうか。そういったことを私が言ってはいけないかもしれませんが、一緒になってやっていただくようなものを何とか皆さんから心配りいただいて、ともにやはりあるべきではないかなと思っていて、特にこういうことはと思っていますので、一生懸命私もやらせてもらいたいと思っています。

○議 長 教育長。

○教 育 長 先ほどの説明を若干訂正させていただきます。教育委員会の学校教育課の職員はものすごく動きがいいです。日々学校に行きながら、修繕の要望等を、現地に足を運んで見ております。そして、要望が出たのに対して、学校と日程を調整して確認の作業はしております。1つ、私はこのやったりとったりの中で、さらに3つだとか4つに絞るのではなくて、ほかに出たやつも含めて、塩谷議員の言うように、市はさらに丁寧に進めてまいりたいというふうに思っています。ただ、わかっていたきたいのは、教育委員会、学校教育課の職員、よく学校へ通い、よく現場を見、頑張っているということをお伝えして説明とさせていただきます。以上です。

○議 長 質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、10款教育費に対する質疑を終わります。

○議 長 ここで休憩といたします。再開は11時25分とします。

[午前11時04分]

○議 長 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

[午前11時25分]

○議 長 11款災害復旧費の説明を求めます。

産業振興部長。

○産業振興部長 それでは、11款災害復旧費について説明を申し上げます。予算書252、253ページをお願いいたします。中段の表、1項1目農林水産施設災害復旧費の丸、農林水産施設災害復旧費(単独)は、前年度同額の165万円となっております。2行目、修繕料100万円は災害時の農業用施設や林道等の応急復旧のためのもの。3行目の応急復旧委託料20万円は、災害時の応急復旧委託費で、行政区など応急復旧する場合を想定しております。4行目、機械器具借上料20万円は、融雪期の土砂撤去や農業用施設、林道等の応急復旧のための重機借り上げの費用でございます。

続きまして、最下段の表は次の254、255ページにまたがっておりますが、2項1目公共土木施設災害復旧費は、前年度と同額の154万円、小規模災害の復旧費でございます。説明につきましては、1目とほぼ同様の内容となっております。

以上で、11款災害復旧費の説明を終わります。

○議 長 災害復旧費に対する質疑を行います。

[「なし」と叫ぶ者あり]

質疑を終わることにご異議ございませんか。

[「異議なし」と叫ぶ者あり]

異議なしと認めます。よって、11款災害復旧費に対する質疑を終わります。

○議 長 12款公債費、13款諸支出金及び14款予備費の一括説明を求めます。

総務部長。

○総務部長 それでは、254、255ページ、続きまして2番目の表、12款公債費から説明を申し上げます。1項1目元金の長期債元金償還金は、平成30年5月借入れ分までの償還元金と平成30年度の借り換え分の償還元金、及び利率見直しによる調整額など43億1,163万円、前年度比9,491万円の減であります。

2段目、2目利子の長期債利子は、平成30年5月借入れ分までの償還利子と、平成30年度借入れ予定額からの推定利子と利率見直しによる調整分で、3億3万円、前年度比5,169万円の減であります。一時借入金利子は前年度同額で200万円の計上であります。元利合計で46億1,366万円、1億4,661万円の減であります。

3番目の表、13款諸支出金、1項1目普通財産取得費は、平成30年度当初での取得予定はありませんので、芽出しとして10万円の計上であります。

一番下の表、14款予備費は、前年度同額6,000万円の計上であります。

以上、一般会計歳出の説明を終わります。

○議 長 12 款、13 款及び 14 款に対する質疑を行います。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、12 款公債費、13 款諸支出金及び 14 款予備費に対する質疑を終わります。

○議 長 以上で、第 7 号議案 平成 30 年度南魚沼市一般会計予算に対する質疑を終わります。

15 番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 ただいまの第 7 号議案 平成 30 年度南魚沼市一般会計予算に対して、修正動議を出します。

○議 長 暫時休憩とします。そのままお待ちください。

〔午前 11 時 28 分〕

○議 長 休憩を閉じ、会議を開きます。

〔午前 11 時 31 分〕

○議 長 皆さま方に動議が全員に配付になりましたでしょうか。はい。

本案に対しましては、寺口友彦君ほか 3 名からお手元に配付しました修正の動議が提出されました。よって、これと本案をあわせて議題とし、提出者の説明を求めます。

15 番・寺口友彦君。

○寺口友彦君 それでは、第 7 号議案 平成 30 年度南魚沼市一般会計予算に対する修正を、提出者として説明させていただきます。

まず、開いていただいて 3 ページをごらんください。第 7 号議案 平成 30 年度南魚沼市一般会計予算一部を次のように修正するものであります。第 1 条中、299 億 2,000 万円を 299 億 1,000 万円に改める。第 1 表、歳入歳出予算の一部を次のように改めるものであります。歳入、17 款繰入金 10 億 538 万 4,000 円を 1,000 万円減額しまして、9 億 9,538 万 4,000 円に、2 項基金繰入金 10 億 464 万 5,000 円を 1,000 万円減額いたしまして、9 億 9,464 万 5,000 円、歳入合計 299 億 2,000 万円を 1,000 万円減額し 299 億 1,000 万円。

歳出、2 款総務費 63 億 4,256 万 7,000 円を 1,000 万円減額し 63 億 3,256 万 7,000 円に、1 項総務管理費 62 億 3,354 万 9,000 円を 1,000 万円減額し 62 億 2,354 万 9,000 円、歳出合計 299 億 2,000 万円を 1,000 万円減額し 299 億 1,000 万円としたいものであります。

提案理由でございますが、2 款総務費の質疑の中で、同僚議員の多くの方から大変質疑が出たわけでありまして。この総務管理費でありますけれども、雪を使ってふるさと南魚沼を PR したい。その思いは、市長も議会も恐らく全員が同じ思いだろうと思っております。ただ、今年度の総務管理費、特に企画プロモーション 1,500 万円について、その中身を説明していただきましたけれども、運搬であったり、あるいは渋谷でのイベント等々についても、なかなか市長の思いがきっちり伝わってくるような予算組みではなかったということでありまし

た。したがって、この点について減額としたいというふうになりました。

しからは、なぜ500万円かということでありますけれども、昨年12月議会において補正予算を通しました。それは、新年度において雪を使ったふるさとPR、このプロモーションをしたい。そのために雪をためておくということについて700万円、これは議会で全会一致で通したわけであります。その700万円でためてある雪を、いかに今度は有効に使うか。このことについては、この企画プロモーションをゼロにするということになると、なかなか難しいものがあるだろうと思っております。

雪国、この南魚沼をPRし、2020年東京オリンピックに向けて南魚沼をPRしたい。その思いは、恐らく市民全員も同じでありましょう。しかしながら、今回のようなそういう予算立てでやるということが、果たしてその思いに通じるものであろうかと、私たちはそうは思っておりません。もっときちんとした計画を練って、しっかりしたものを、実は6月の補正に出していただき、また審議をしたいという思いであります。

それでは、5ページ、参考をお開きください。1、総括、歳入、17款繰入金、本年度予算10億538万4,000円を1,000万円減額し9億9,538万4,000円に。前年度予算は変わりありません。比較1億8,041万3,000円を1億7,041万3,000円に。歳入合計299億2,000万円を1,000万円減額して299億1,000万円、前年度予算は変わりありません。比較減、10億2,300万円を1,000万円増ししまして10億3,300万円とするものであります。

もう1枚お開きをいただきまして、6ページ、歳出であります。2款総務費、本年度予算63億4,256万7,000円を1,000万円減額し、63億3,256万7,000円に。前年度予算は変わりありません。比較2億63万1,000円を1,000万円減額し、1億9,063万1,000円に。

予算の内訳でありますけれども、国庫支出金、地方債、その他は変わりありません。一般財源56億4,598万7,000円を1,000万円減額し、56億3,598万7,000円に。歳出合計299億2,000万円を1,000万円減額し299億1,000万円。前年度予算は変わりありません。比較10億2,300万円減を10億3,300万円減に改めます。国庫支出金、地方債、その他は変わりありません。一般財源212億6,557万5,000円を1,000万円減額し、212億5,557万5,000円とするものであります。

7ページをごらんいただきます。歳入17款繰入金、2項基金繰入金、1目財政調整基金繰入金、本年度予算7億9,000万円を7億8,000万円に減額。前年度は変わりなし。比較1億8,000万円を1億7,000万円に減額します。1節財政調整基金繰入金7億9,000万円を7億8,000万円に減額します。説明欄、財政調整基金繰入金7億9,000万円を7億8,000万円に減額し、計10億464万5,000円を9億9,464万5,000円に。前年度予算は変わりなし。比較1億8,041万3,000円を1億7,041万3,000円にするものであります。

最終ページであります。歳出、2款総務費、1項総務管理費、7企画費、これは本年度予算5億3,517万7,000円を5億2,517万7,000円に、比較3億2,894万2,000円を3億1,894万2,000円に。財源内訳、一般財源だけ、4億1,309万6,000円を4億309万6,000円に改めます。節、13節委託料3億7,648万2,000円を3億6,648万2,000円に減額。説明欄、企

画プロモーション事業費 1,500 万円を 500 万円に、各種業務委託料 1,500 万円を 500 万円に減額するものであります。計 62 億 3,354 万 9,000 円を 62 億 2,354 万 9,000 円に 1,000 万円減額。比較 2 億 2,753 万 7,000 円を 2 億 1,753 万 7,000 円に減額。一般財源 55 億 8,857 万 4,000 円を 55 億 7,857 万 4,000 円に減額するものであります。以上で説明を終わります。

○議 長 修正案に対する質疑を行います。

なお、この質疑は執行部に対しても行うことができます。

○議 長 ちょっと済みません、何人おられますか、挙手願います。

〔複数名挙手あり〕

4 名……6 名。

○議 長 それでは昼食のため、休憩としたいと思います。再開は 1 時 15 分といたします。

〔午前 11 時 41 分〕

○議 長 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

〔午後 1 時 15 分〕

○議 長 市民生活部長より発言を求められていますので、これを許可します。

市民生活部長。

○市民生活部長 貴重なお時間をお借りしまして、1 点お詫びと訂正を申し上げたいと思います。

本日朝、お配りをいたしました、第 44 号議案 南魚沼市国民健康保険税条例の一部改正につきまして、関連資料としてお配りをした中に一部誤りがございましたので、改めまして丸正として再提出をさせていただいたものでございます。

関連資料の 1 ページ、新旧税率等の比較表におきまして、参考値として掲載をしました標準税率の値に誤りがございました。正式発表前の仮発表段階の数字が混入をしていたものでありまして、均等割り、平等割りの額及び課税額の試算等において正しい数値に訂正させていただいたものでございます。今後このようなことのないよう、厳しくチェックを行ってまいります。まことに申しわけございませんでした。

○議 長 15 番・寺口友彦君、登壇願います。発言を許します。

提出者。

○寺口友彦君 まず、訂正のお願いでございます。先ほどの提案理由の説明の中で、12 月補正、これは「全会一致」というふうに私は説明申し上げましたけれども、「賛成多数」ということで、間違いでしたので、その部分を訂正させていただきます。よろしくお願いいたします。

○議 長 質疑を行います。

13 番・岡村雅夫君。

○岡村雅夫君 今ほど訂正をしていただきましたので、その点については触れません。

500 万円を残した理由についてであります。説明があれば 500 万円に限らず認めようという考え方なのか、ひとつお聞きします。

要するに、このプロモーション事業については、今まで説明した中での問題は、その趣旨には賛成をするということであるか、お聞します。

今まで明らかになっているのは、運搬で750万円から800万円。そしてイベントについてはこれから渋谷区と打ち合わせをするということでありました。また、東京オリンピックまでの3年間の事業として取り組むということも判明しておりますが、それらについては是とするということであるか、ひとつお聞きします。

そして、説明の中に6月議会であるということがあります。それについて執行部は6月議会には間に合うというふうに考えておられるのか。あるいはまた何が至らなかったかというあたりをどう捉えているかひとつお聞きします。今の修正案について、執行部はどう考えましたかということです。以上です。

○議 長 提出者。

○寺口友彦君 まず、500万円の理由でありますけれども、厳格に積算をしたわけではございません。

趣旨に賛成かという部分でありますけれども、提案理由で申しましたように、雪国をPRしていこうと、そういう考え方の趣旨には賛成であるということでもあります。

明細については、750万円、750万円という部分ありましたけれども、この部分が細かな説明といいますか、きちんとした企画の中でも500万円を超えた支出まで許すのかという、そういうご質問かと思えます。予算で500万円と組めば、それを超えてということは、私はあり得ないと思っております。

500万円とした理由については、東京オリンピックに向けて、この雪国のPRをしていこうという考え方には別に反対するものではないのです。ただ、ただ、12月補正で通した700万円がございました。これを無駄にはできないわけありますから、そうするとこの700万円を生かすということについては、それこそ大づかみでありますけれども、500万円という部分を残しておけば、いろいろな企画ができるのではないかと。本式な説明については、先ほど申しましたように、6月補正等で説明をいただきたいということでもあります……（何事か叫ぶ者あり）それは申しました。

○議 長 地方創生特命部長。

○地方創生特命部長 最後の、6月補正で説明等が間に合うかというご質問だったかと思えます。これは以前より説明を差し上げておりますとおり、渋谷区の皆さん、渋谷区のイベントとの連携を想定しているところがございます、当然ですが、先方の実行委員会は大きな組織がございます。そことの打ち合わせ考えますと、6月に補正をいただいて、予算を通していただいたとしても、その規模が、それ以前に頭の中にないという状況で先方と協議するというのは非常に無理があるというふうに認識はしているところがございます。以上です。

○議 長 市長。

○市 長 修正が出たことに対する所感といいますか。なかなか時間も、いろいろな

やり取りの中で話ししているとおり、歩きながら考えているようなところは、これは本当に率直なところですよ。で、なかなか形が見えないと、そして規模が見えない。これはどうしてもそんな部分があります。本当は細かいところを積算して、こうでありますから皆さんよろしくお願ひしますということが、これは当たり前のことですけれども。では、例えば置きかえると、研究費とか、そういったような類いのときに、そういうことまで言えるかということですよ。

なので、そういうものであるということをご理解いただいて、これを全部使いきるかというところは、一応こちらからはそういう説明していますが、わかりません。もしかしたらもっとかかるのかもしれない。しかし、そのときには勝手なことはできませんので、いろいろ本当にその方向性として、いや、そこまでやってもいいということになればやれるでしょうが、やはり先に決めていただいたこの規模の中でものを考えさせていただかざるを得ないというか、そういうふうには思っておりますので、なかなかご理解いただくのに難しい議案であるなというふうには思っています。

○議 長 13番・岡村雅夫君。

○岡村雅夫君 提案者には質問は以上であります。

執行部にもう一言お願ひします。この提案が通ると限ったことではありませんので、それは通らなければこのとおりのやればいわけであります。しかし、今ほどありましたように、6月の日程が6月の始めからということでもありますので、そうするとそれから7月末に仕事なり何らかのモーションをかけるということになりますと、当然決まっていなければならないというふうには思いますので、6月議会までには何らかの形できちんと示せるということでもありますか、ひとつ。これに関連——もし、これが否決されたとすると、そういうことも聞いておきたいという立場であります。

○議 長 地方創生特命部長。

○地方創生特命部長 先ほど申し上げましたとおりの、必ずできますということをお願ひされたいと思います。これは先方があることでございます。7月の末のイベントにしましても、実行委員会が既に動いているのではないかと思いますし、協議が進んでいる部分も間もなく返答が来るようにはなっておりますけれども、状況としますと7月のもの、これから打ち合わせをしながらというときに、うちのほうの予算規模もわからず、何がどれだけ先方に提供できるかもわからないような状況で、協議を進めることはできないのではないかとこのように認識しているところですよ。

○議 長 地方創生特命部長。

○地方創生特命部長 大変失礼をいたしました。それは、当方で提案させていただきました予算が通った際には、先方とも既にイベントの選定から始めておりますので、間に合わせられるとは思っております。以上ですよ。

○議 長 21番・牧野晶君。

○牧野 晶君 提案者に質問ですけれども、提案者は500万円残したのに関しては、500

万円あれば、積算をしっかりとしたわけではないけれども、このくらいあれば何かできるかなというふうなのですよ。

私は、市長サイドの1,500万円の提案も、結局はそれと同じような言い方をしているのではないの、違うかな。7月にそのイベントをして、大体750万円、750万円とかそういうふうにやっていこう。走りながら決めていくと言っているのと、寺口議員が、提案者が言っているこの500万円というの、まずは500万円やって走りながら決めさせていこうというのは、額が違うだけで趣旨は同じではないのかなと。わざわざ修正案を出すほどのことではないのかなという思いが1点あるのですよ。そこをどういうふうに思うかどうかと。

あと、もう1個、私はこれは執行部にちょっと聞きたいのが、修正案が2年に一遍とか最近出てくるわけなんです。昔はなかったのです。やはり修正案が出てくるというのは、執行部サイドだってやっぱり問題がある点もあると思うのです。今まではなかったわけですよ。例えばCCRCだって出てきたりしたし、あとは何があったか、やはりCCRCか……（「大原」と叫ぶ者あり）大原運動公園も出てきたりもあるわけだし。そういう点でちょっと執行部のほうも説明が——説明とか急にぼんと出すとか、そういうふうな姿勢が出てきていて、ちょっとそういう姿勢が、議場に今選ばれている人たちが修正案を出していくというのものもあるかもしれないわけです。こればかり言われたいですけども、そういう点についてはどういうふうに考えているのかどうか、聞かせてください。

○議 長 提出者。

○寺口友彦君 まず、大づかみの金額、1,500万円と500万円、同じではないかというような、そこをどう考えているかというお尋ねであります。1,500万円というのは大まかに言うと、運搬とイベント、東京の渋谷を考えているわけです、渋谷を。ですけれども、その渋谷でやるということをまず抜きにして、やはり雪を使ってこのふるさとをPRすることについては、まず、500万円——根拠はあまり不鮮明でありますけれども、500万円を使って何ができるのかというところを、そこを先に示してもらいたいわけです。

1,500万円というのは、東京でイベントをやろうということですから、この部分については、ちょっと東京でやるにしても説明に無理があるのではないかなという思いでやっているわけです。大づかみで1,500万円の500万円を金額を下げてと言われても、私はやはりそうではないと。東京でのイベント、これについてはもっときちんとした説明がなければ、やはり議会として予算は認められないのではないかと、そういう思いである。

ただ、何遍も言いますがけれども、12月補正で700万円、雪をためるというのを通したわけでありまして、これを生かすということになると、新年度、例えばゴールデンウィーク等々で何をするかということまであるわけです。ここで500万円くらい残してもらわなければ、ゴールデンウィークで何かということについても企画もできないのではないかと、そういうような考えであります。

○議 長 市長。

○市長 牧野議員のご質問にお答えしたいと思います。修正案が出されるかどうかというのは、これは、議会のほうの皆さんの権限でありますので、そこは私が何かコメントすることはないと思います。おっしゃる意味の、急にやはりものが出てくるということについては、十分反省もしなければいけません。これからやはりきちんとした説明を果たしていくということは当然あるかと思いますが、私はちょっとだけ、執行部といいますか、私の思いを、市長になってからの思いですけれども。年に定例会が4回というのが、非常にやはり自分の中では、もっと本当は相談をしながらやっていきたいことがいっぱいあります。これはしかし、定例会4回というのは決められているわけです。そこを何だかんだ言えませんが、できればこちらから説明をするような全員協議会を申し込みさせていただくとか。そこまでの課題でなければ、もうちょっといろいろな皆さん、会派代表の皆さんに説明申し上げるとか、そういうところは心を砕いていかなければならないなという思いを、今回こうやって修正動議が出て、今のご指摘もある中では十分考えなければいけないなと思います。ちょっと速度が——変わっていく速度が速すぎるというのがちょっと否めない、本当のこれは気持ちであります。

○議長 21番・牧野晶君。

○牧野晶君 まず、後段のほうから言いますけれども、やはりスピードを持って取り組むことは重要だと思います。ただ、そのスピードも、やはりしっかりとした予測とか、また裏づけ、あとはしっかりみんな向いていることであればいいわけです。ただ、過去の修正案、大原運動公園でも数字がひとり歩きしたとかもあるし、C C R Cなんて私は突っ走り過ぎだよなど。ちゃんと時代が見えていないとか、雰囲気が見えていないなという、そういうふうな点があったので。スピードも大事ですよ、本当に市長が言われるとおりにね。と同時に説明も大事なので、そのバランスをうまくやるように、これからも精進していただければなと思います。

提案者のほうに質問は、やはり私は1,500万円の数字と500万円に関しては同じではないかという思いがあるのですよ。これがでは3,000万円だったらどうだったの。3,000万円の提案だったら、じゃあ1,000万円残したのというふうにもとれるし、3,000万円でも500万円だよというふうにも。でも、結局の本質のところはやっぱり数字ははっきり、裏づけははっきりしていないけれども、500万円くらい残しておけばいいだろうと。でも、市長サイドの今回の提案は、運送費750万円、あとはイベント費750万円とか、そういうふうに一応言っているわけですよ。その中でやっていくぞというのよりも、500万円残したというのは、私はちょっと修正案としては、説明としては緩いと思います。そのところ、筋が通らないというふうに思います。やるのだったら、何ですっぱり切らなかったのかというふうな、でもそこは500万円残して手を与えたかったという、何か考えてあげたかったというのは、私はそこをもう1回だけ、心の声を聞かせていただければと思います。

○議長 提出者。

○寺口友彦君 心の声ということでもありますけれども、市民クラブでいろいろな議論をし

た中で、この部分について、要は行政は継続性を、まず考えなければならないというものでありますよね。そうすると、この700万円の予算を通して雪をためていた。これを今度はどう生かすのかということについて、生かし方について、そうすると市長から提案のあった1,500万円というのはちょっと無理があるなど。であれば、その生かし方として500万円くらいであれば、まあまあのところは考えられて、8月にメインを考えているわけですから。そうするとそこに、また6月できちんと説明をいただけるのではないかなと、そういう思いがあるのです。心の中を言わせていただきます。

○議 長 21番・牧野晶君。

○牧野 晶君 言っていることはわかるけれども、それであれば、いわゆる自分たちの言いわけのために500万円残したというふうに今の答弁は、私は聞こえますよ。要は12月で通した。また、今回1,500万円来た。だけれども、700万円賛成した手前があるから、丸きり落とすのはまかりならん。だから500万円残したというふうに、本当になおさら私は今の答弁でちょっとぶれているなとか、やり方がよくないなというふうな思いがありますが、そういうふうに見えますが、そこはどういうふうに答弁するか。

○議 長 提出者。

○寺口友彦君 そういうふうに見えたとなれば、これはそれこそ見解の相違ということでお答えする以外にはないわけで、これ以上の説明はございません。

○議 長 14番・佐藤剛君。

○佐藤 剛君 執行部と提案者に1件ずつ聞いてみたい……。

○議 長 賛成……（「提案者できないかな」と叫ぶ者あり）

○議 長 いやいや、提案者の今の答弁の中で、私たち市民クラブのところちょっと話が違わないかというところがあるので。いやいや……

○議 長 暫時休憩します。

[午後1時32分]

○議 長 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

[午後1時35分]

○議 長 14番・佐藤議員は執行部への質問ということでございましたので、賛成者に名を連ねておる関係上、質疑を許しません。許可いたしません。

19番・関常幸君。

○関 常幸君 私は提案者に質問いたしますが、なぜ修正動議が出たのかなという形で、岡村議員、牧野議員と本質的には同じですけども、700万円を通したと。その雪は1,000立米で大体トン数にすると150トンくらいになるのですよね。そして寺口議員も、11年間くらいですか、南魚沼市から亀有に雪を持っていっているということはお存じですね。その雪の量は54トンで10トン車4台、4トン車3台を持って行って、総事業費大体300万円くらいかかる。そういうことですよ。

だから、本当に今のその雪の量からいけば、私は修正動議を出すということは、すごいこ

とだと思えますよ。執行部に成りかわってするわけでありますので、それを補正を見越して、500万円を出していくなどというのは、私は趣旨が本当に同じであれば、出さなくてもいいのではないかなというふうな思いがあります。今言ったように、500万円の根拠もなくて出していくというのは、牧野議員が言ったのと同じような感じを私も持っているのです。そのところを、重なる部分がありますけれども、もう一度ひとつお願いしたいと思えます。

○議 長 提出者。

○寺口友彦君 先ほど来、出ている500万円の、500万円まで減額をしたということの説明も含めて、なぜ修正かと。市長の思いを、これについてはだめだと言っているわけではないのに、なぜかという部分でありますけれども、前のお二人の説明の中でちょっと言葉足らずであったかなというふうに思っていますけれども。要は1,500万円でやられようとしていることについて、大づかみな予算でもあったと。これをそのまま通すということになると、これから渋谷区と話し合いをした中で内容等々決めていくというところでありますから、市長にお任せという部分もあったわけであります。

この部分をなぜ500万円にするのかということになれば、今度はきちんとした説明をしていただくについても、こういう予算が全くゼロになったとすれば、今度は執行部側でゼロになったとすれば、例えば雪だるま財団のコンサルから話を聞いて、どういうものかいいとか、あるいは実際にそういうようなプロモーションをしているとか、どういうものかいいとか言ったところで、調査研究は必要になるわけです。そういう予算まで今度は完全にシャットアウトしてしまうということになると、全くやろうとしていることがここで一旦途切れてしまうという部分もあるわけですよ。

それなので、この500万円が多いか少ないかはわかりませんが、そういう調査研究をしながら、雪国をPRしていく。ふるさとをPRしていこうということについて、もっと効果のあるようなしっかりとした企画をちゃんと出していただきたい。そういう思いで、大づかみでありますけれども、500万円という金額に設定をしたということであります。

○議 長 19番・関常幸君。

○関 常幸君 提案者は、1,500万円が大づかみで計画があまり不明瞭だというようなことを言っているのだと思えますけれども、私は一連の説明の中で、十分1,500万円の趣旨、内容は理解しているわけでありますので、そのところがなかなかわからないなと言っているのです。当然わからなくていいので、私とすれば、本当に修正動議なんて本当に必要ないなど。十分執行部の説明で、この1,500万円が本当によく私はわかっていたというふうなことで質問を終わります。

○議 長 質疑を終わることに……

1番・大平剛君。

○大平 剛君 1点だけ執行部に確認させていただきたいと思えます。先ほどちょっと、計画をいづごろ出せるかという話も出たのですが、実際のところ、正確に計画ができて我々のほうにお示しいただける、そういうのは本当に最速でどのくらいで出せそうなのか。ちょ

っとその辺を教えていただきたいと思います。

○議 長 U&Iときめき課長。

○U&Iときめき課長 先ほど清水部参事のほうでお話しをしまして、まず6月議会で説明ができるようにという準備はしようと思っています。そのつもりではあります。しかし、5月の上旬と言っても、本当に頭からある程度の期間で行います。それが私どもが研究をまとめるものと、渋谷区と協議をするという期間が、その後は当然必要になると想定をしております。そうしますと話しできるのが、議会の当初の資料には一切間に合わないということが十分想定されるという状況でございます。

ですから、中身的なものである程度固まる、骨子等は決まるのでしょうけれども、詳細のところまでお話しできるというのは、6月に入ってからという想定がなされます。ですので、当初で考えていたものが6月議会で予算をとるというふうな状況のスケジュールには、大変難しいものがあると想定はしております。以上です。

○議 長 20番・塩谷寿雄君。

○塩谷寿雄君 提出者に質問いたします。提出者、出した方は、299億2,000万円という予算にはおおむね賛成で、修正案がここしか上がってきていないということは、1,000万円の減額ということでやっているのだと思いますけれども、提出者もよくよく質問でも言われていました。江戸川区とかいろいろな名前が出て、今も亀有の名前も出ました。実際やっているところもありますし。もし、執行部が、予算で積極的に今度は江戸川区とも取り組んでいきたいという中で、最初に、行きたいからこういう予算を組みたいと言った場合、でも、提出者はやはり言っているから、「いいな、それやってくれ」というふうに、私もそれは同じ意味ですよ。東京都で積極的にそういう23区とつき合っていくとか、そういうのはやはりやるべきだと思っています。

特に市長が今言っているのは、多分、東京オリンピックを見据えての活動が主で、時間的なこともあると思いますけれども、そういったときに、例えば今のそういうときの考え方と、このちょっと結末を言うと、これが通ればいいですけども、通らなかったときに、一般予算に対して反対か賛成かとなるわけです。それを答えられなくてもいいのですけれども、そうなった場合、おおむねこれは賛成だと思うので、賛成していくのか。それでもこの1,000万円がちょっとだめだということで全体を反対していくのか。私は多分おおむね提出者は賛成ではないかなと、あと賛成者も賛成なのではないかなと思っていますので、その辺が答えられたらちょっと聞きたいと思います。

執行部にお聞きしますけれども、本当に雪まつりのときに、渋谷区から区民部長、あと商工観光課長、地域振興課長というような幹部の人が何人か来て、渋谷区で活躍されている方も何人か来たということを常々説明では言っていました。私も議長と雪まつりの席に出席させていただいて、2人で名刺交換などをさせていただきましたけれども、やはり大幹部が来ているということは、それなりにやっていただけるものだろうと。我々の取り組みも見に来ていただいたわけですから。いろいろなことも言っていってくれたと思います。ここで直すべき

こともあるなということも、外の観点から言っていたと思います。そういう中でやはり積極的にこれに取り組む意気込みというのがあれば、市長のほうから答弁をいただきたいと思っております。

○議 長 提出者。

○寺口友彦君 江戸川区、葛飾区だったならばということですがけれども、たればについては、この修正案とは若干違いますので、お答えしなくてもいいかなと思いますけれども、思いだけ言わせていただければ、これは江戸川区であろうと葛飾区であろうと、この内容が本当に狙った効果を十分発揮できるような、そういう予算組みであるとするならば、私は賛成しますよ、本当に。ですけれども、大づかみの中でも本当に狙ったところに、渋谷区でやろうとしていること。今、予算審議で説明を聞いた段階の中では、それはちょっと無理ではないかなというような、不鮮明だなという部分があるわけです。

なので、本当に繰り返しになりますけれども、500万円を残したという意味は、狙いを本当に、効果を絶大にしていくためには、もう少し時間をかけてやはり調査研究すべきです。そのためにこれはゼロにするということは、やっちはいけないことだなというふうに思っているわけではあります。

あと、賛成、反対については、この場では申し上げる場ではないと思っておりますので、答弁は差し控えさせていただきます。

○議 長 市長。

○市 長 基本的には予算審議の中で2款の部分でこちらから説明し、またやりとりの中でいろいろ申し上げてきたとおりで。けれども、思いとしては、先ほどいろいろな話がある中で聞いていて、これはちょっとあり得ないと思っているのは、当地で、ここで雪を使った、例えば予算が少なくなって、ここでやることでもいいではないかという議論がありましたけれども、それは全く想定していません。向こう、やはり関東圏、特に首都圏、それからやはり目途は2020年に行く。逆に言うとたった2回しか調査研究をする年がありません。そういうところで今回やってみせる。

そして、来年につなげるために、そこにいろいろな関係者をお呼びする。これは、例えばできればいろいろな意味、暑さ対策と言えば医師会も来るかもしれない。そういうことも含めて、決してイベントを渋谷でやるというテーマだけで持っていくのではないですよという話は、2款でも私はかなり熱心にさせてもらったと思うのですけれども。それを聞いた上で修正案が出てきているということですので、なかなかご理解いただけないのかなという思いがあります。私としては、こういうことにチャレンジできない限り、我々の発信力というのはなかなか見つけにくいというふうに思っています、そういうのが私の思いであります。ちょっと答えになったかどうか分かりません。

○議 長 16番・中沢一博君。

○中沢一博君 執行部にお伺いします。聞き手の粗相でちょっと確認したい部分があります。それは何かと言いますと、内容が決まったら、6月でまた補正をお願いするかわからな

いというような発言が先ほどありました。その部分の考え方が、1,500万円ある面の頭打ちというふうに考えているのか。また、それよりもどんどん増えようとしているのか。かなりそれはまた私どもにとっても大きな部分だと思います。その部分のいろいろ今までのニュアンス、打ち合わせをしている中のニュアンスで、どのように私たちは受けとめていいのでしょうか。お聞かせいただきたいと思います。

○議 長 市長。

○市 長 多分、今考えていて、私が何かさっきちょっと言い方の粗相があったのかもしれない。多分そこを捉えているのかなと思うのですが。要するに1,500万円という数字がちょっと、それすらも今考えて構想している中で、例えば来年とか考えていった場合には、そういう範囲でもないのかもしれないというような意味で言ったのです。新年度の平成30年度予算の中では、1,500万円の中でこれは当然やらなければいけないと思います。

ただ、これからいろいろ、先ほど言ったように考えながら行く。もっとほかからのいろいろな意味のオファーがあるかもしれない。そういったときに、膨らみをもって、もうちょっといろいろなことをやってみようということになったときは、当然我々のほうもそういう立案ができるのかどうか考え、そして皆さんのところにお示しをして、やはりそれで是とされなければ一歩も前に出られませんから。そういうこともあり得るという意味で言ったということで、理解をしていただければと思います。新年度はこの予算で当然やらせていただきたいと思います。

○議 長 質疑を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、修正案に対する質疑を終わります。ご苦労さまでした。

○議 長 以上で、第7号議案 平成30年度南魚沼市一般会計予算の原案及び修正案に対する質疑を終わります。

○議 長 討論を行います。

討論は原案に賛成者、次に原案及び修正案の両方に反対者、次に原案に賛成者、次に修正案に賛成者の順に行います。まず、原案に賛成者の発言を許します。

11番・清塚武敏君。

○清塚武敏君 それでは、第7号議案 平成30年度南魚沼市一般会計予算原案について、南魚みらいクラブを代表いたしまして賛成の立場で討論に参加いたします。

本予算について、4日間にわたりそれぞれの議員の視点で、全ての南魚沼市民の暮らしと生活を守り、将来を見据えた新たなニーズに対応した予算なのか。林茂男南魚沼市長が目指すべき、「若者が帰ってこられる、住み続けられる南魚沼市」につながるか。そして税収が減少傾向であり、財政健全化を着実に進めていかなければならない中、高齢化社会の進展と人口減少問題や、当市が抱える多くの課題に取り組む予算なのかを十分審議してきました。

ただいま提出されました修正案の中の企画プロモーション事業につきましては、当市にとっては初めての試みであり、具体的な計画もこれから渋谷区との調整が必要であるようであ

りますが、雪国の厳しさ、雪の効用、雪の魅力や伝統・文化、地域特産品を全国や世界へと発信できる、しなければならない事業と考えます。今回の候補地は首都圏渋谷区などとの新たな連携によりとしています。林市長が渋谷区に出向き、みずから先頭に立って取り組む事業であり、未来につながる投資でもあります。渋谷区の区長、長谷部健さんは45歳という若い区長さんであり、必ずや林市長とうまく連携できると考えております。渋谷区は人口22万5,000人。昼は2.5倍、55万人にもなる大きなまちです。多くの若者や外国人が集まる渋谷で行う夏の雪のイベントは、必ず注目されると思います。難しい課題をすばらしい夢に変える可能性があるこの予算、1,500万円が修正案で500万円に削減されるようなことがあれば、相手先にも非常に失礼になるのかと感じます。どうかご理解を願えればと思います。

さて、本予算に戻りますが、新年度予算で取り組む主だった点を何点か上げさせていただきます。保健・医療・福祉では市民の命を守り育むことを柱にした、健診や保健指導の充実による生活習慣病等の予防や、がんの早期発見に努める。子ども医療費助成の拡充。これは子ども医療費保険適用分、全額助成の対象年齢の拡大であります。子育て支援の保育施設や子育て環境の充実、介護職員の人材不足に対応する介護職員初任者研修受講料の全額補助、医療従事者確保の看護師不足を解消するための市独自の給付型奨学金——これは平成31年度であります。開始に向けての準備を進める予定とあります。そして2年目になるふるさと納税推進事業の拡充も含め、全般にわたり、若い林市長が積極的に前に進めていこうとする期待が持てる取り組みであると考えます。

結びになりますが、第2次南魚沼市総合計画の基本構想が示す将来像、「自然・人・産業の和で築く安心のまち」を実現するための、平成30年度一般会計予算原案総額299億2,000万円は、各事業の位置づけ、方向性、優先度を判断し、限られた財源の効果的な活用に努めた予算であると判断いたしました。よって、賛成の討論といたします。皆さんの賛同をお願いいたします。

○議長 次に、原案及び修正案に反対者の発言を許します。

13番・岡村雅夫君。

○岡村雅夫君 私は、第7号議案 平成30年度一般会計予算の原案と、ただいま出されました修正案について、反対の立場で討論に参加をさせていただきます。

2018年度政府当初予算は、0.3%増の97兆7,128億円で6年連続過去最大だそうであります。改憲の動きと呼応してさらに大軍拡を進め、専守防衛をかなぐり捨てて、本格的な攻撃能力の整備に取り組む重大な予算案となっています。暮らし、経済の分野では大企業や富裕層優先で国民には冷たいアベノミクスの本質は変わりません。社会保障の自然増削減や大企業への減税など、格差と貧困を一層拡大する予算となっています。

一方、森友・加計疑惑問題でのお友達優遇は目に余るものがあります。森友学園問題の決裁文書きかえは政局にも発展しようとしているのではないのでしょうか。

市長は、所信表明で政府の楽観した経済見通しに期待しつつ、財政健全化指標の改善は喫緊の課題としながら財源確保が厳しい現状を述べています。市内の実態は一向に景気回復は

見られず、市民の暮らしはさらに厳しい現状であります。まさに暮らし応援の予算が組まれたか、であります。平成30年度一般会計予算は、前年度マイナス10億2,300万円、3.3%減の299億2,000万円です。財政調整基金、合併振興基金から9億9,000万円繰り入れ、ふるさと納税3億2,453万円を見込んでの編成であります。年度末起債残高見込額は一般会計で401億円。前会計では838億円であります。若干の改善が見られますが、大きな荷物となっていることは変わりません。

そうした中で魚沼コシヒカリ特A陥落は深刻な問題であります。日本一おいしい南魚沼産コシヒカリの戦略が心配になります。原因の究明と早急な対策が必要であります。子ども医療費助成が就学前までに改善されました。これは国のペナルティ廃止の結果でありまして、私たちはさらなる拡充で近隣に迫る子育て支援をするべきと考えています。住宅リフォーム事業の継続は喜ばれております。しかし、ことしで終わりであってはなりません。ますます中小企業振興策をさらに進めるべきであります。ふるさと納税推進事業、これは納税額県下一番をうたつての取り組みで8億円突破と発表されています。しかし、実態が見えにくく、歳入歳出を明確にし、財源として使える額を常に示すべきではないかと考えるところであります。

今ほどありました企画プロモーション事業1,500万円は、東京オリンピック・パラリンピックでの雪資源活用による環境にやさしいエネルギーと、南魚沼の魅力発信を最終目標としたPRプロジェクトと説明をしておりますが、12月補正での雪を300立米確保する事業の700万円は、既に執行をされております。今回の審議の中では運搬費は750万円から800万円というお話があります。800万円とすると、あと700万円で何をするか、未定というわけがあります。そして3年間の継続事業であるということですが、私は、計画と事業費は明示して取り組むべきだと考えております。今予算が、1,500万円は運搬費800万円と次年度の集雪保存費で消えてしまいます。どんどん膨らむ予算とならないか心配しています。

次に、国の進める医療・介護は、在宅に置きかえていこうとしています。しかし、体制がなかなか追いついていきません。特に宙に浮いた療養病床、この閉鎖は切実な問題となっております。

移住・定住促進事業5,538万円の南魚沼版CCRCは、南魚沼市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき具体的に事業化を進めるとしてありますが、可能でありましょうか。市の役割はインフラ整備などで、あくまでも民間企業がやることでありまして、行政が深入りするものではありません。

新ごみ施設の建設地を国際大学用地内として説明に入りました。国の方針では、災害時の対策を理由に大型化と広域化、そして、焼却発電偏重の施設整備が推奨されているところがあります。施設整備は安全で適切な規模であることが欠かせません。特に環境問題については慎重な取り組みが必要であります。過大な焼却施設導入で、発電のためにごみを確保するといった逆立ちした事態に陥らないようチェックが必要です。焼却炉の規模、付帯設備によっては莫大な建設費、維持管理費、運営費がかかります。市民の協力と理解を得ながら、分

別、リサイクルを基本に資源循環型社会の構築を目指す取り組みが必要でしょう。

林業の振興であります。循環型社会の構築を目指していますが、ペレットストーブ補助金の継続など従来の域を脱していません。木質ペレットの製造が中止され、森林組合が製材から撤退します。バイオマスタウン構想を練り直し、市長公約の里山再生で循環型社会の構築へ、雇用の場確保に踏み出すべきではないでしょうか。

水道料金値下げ分相当の基準外補助金5,000万円は、基本料金2,415円を215円下げ、2,200円とした分の補助金であります。年間1件当たり、要するに1口当たり2,580円の値下げにとどまっているものであります。県平均の1立方150円を目指すべきではないでしょうか。

また、市民バスの土日・祝日運行などの拡充、保育料の軽減、学童保育のさらなる拡充・負担軽減、給食費負担の軽減など、喫緊の課題が山積しております。

今市政に望まれていることは、生活の安全・安心とさらなる暮らし応援が急務です。以上、指摘いたしまして、2018年度一般会計予算の反対討論といたします。以上です。

○議 長 次に原案に賛成者の発言を許します。

16番・中沢一博君。

○中沢一博君 未来創政会を代表いたしまして、第7号議案 平成30年度南魚沼市一般会計予算について、原案に賛成の立場で討論に参加させていただきます。

平成30年度一般会計当初予算は、平成33年度の一本化算定をにらんで300億円を切る、299億2,000万円の前年比10億2,300万円、3.3%減の予算となりました。今後も合併特例債を使用しての特別措置が終了して、財政計画では地方交付税を前年比2%減に、そして臨時財政対策債を1.5%減と見込み、徹底した経費の削減に取り組む中で、集中と選択の重さを感じる次第であります。そういう中で、どう生活現場を守るか。財源を生んでいくか。みずから行動を起こし、財源を生む。まさに体制づくりの強化が求められている次第であります。

その中で今年度予算には修正動議が出されました。相手がある中でございますので、わかりますけれども、やはり内容が決まらない中、予算計上し、正直なところわかるような気がするのも事実でございます。しかし、首長が進んで新たな発想で南魚沼市を何とかしたいとチャレンジし提言されたことに、ただ反対するのではなくて、市長のリーダーシップに私は期待したいと思っております。また、その言葉を信じたいと思っております。市長の決意をお聞きし、やるからにはぜひ、大成功の事業にさせていただきたい。そのように思う次第でございます。

それと、どうしてもCCRC関連のこの事業、昨年度予算のときにも市財政から持ち出し金はない。民間主導でやっていくということで賛同を私たちはしたわけでございますけれども、もし、民間が積極的に乗り出さなければ、私は発想の転換も事業の総合的判断もやはり変える必要があるというふうに思う1人であります。若者が本当に移住・定住、市長が言っているように、この事業、雇用の創出という部分を本当に真剣に考え期待したいと、そのように思っている次第であります。

そういう中で今年度の予算を見たときに、道路の橋梁修繕、また道路改築、消融雪施設整備などで20億円の予算を計上しております。そのうち11億7,400万円を国費としての要望もしており、今後来る、今言われている六日町バイパス、浦佐バイパス、そして八箇峠道路など、早期供用開始に向けて邁進している。ぜひ頑張ってください。そのように思う次第であります。

水道事業に関しましては、畔地浄水場を10年程度の延命化が決定いたしました。そして経営戦略を見直す中で水道料金の値下げ、減免対応は金額が少ないかもしれないけれども、財政がわかるからこそ、少ないかもしれないけれども、よく減免措置に乗り切っていただいたな。私は評価したいというふうに思っている次第であります。

また、市民の命と健康を守るためにも、市民一人一人が主役との意思に、健康という施策もいっぱい出ております。データヘルスを活用したさらなる意識向上を求めべく、一部ではありますけれども健康マイレージのような、そういう推進もやはり今後は進めていただきたいというふうに思っている次第であります。

未来を託すべき子供たちに、そういう観点でも今回の予算、子ども医療費の窓口無料、助成対象を引き上げました。5歳到達までを、今度は小学校就学までと負担軽減を図りました。そのことに関しても私は大いに評価したいと思っております。また、今後も支援、助成のあり方をさらに私は検討していただきたい。そのように願う次第であります。また、不妊治療、また県下先駆けての不妊症治療の助成継続等もやっております。妊婦期から子育て期に至るまで切れ目のない支援に邁進していただきたい。そのように思っている次第であります。

また、介護の関係におきましても、当市では130人の介護職員が不足していると。そういう事実が明確になっております。その中で緊急対策として介護職員、初任者研修受講料を全額補助するなどして市独自の、何とかしなければいけないという支援の事業に乗り出したことに私は評価したいと思っております。

また、平成30年度からは、元気な高齢者に介護ボランティア制度も始めるというふうになりました。私はこうやって一人一人がみんなして、大好きな南魚沼市で健康で長生きしたい。そういう部分の一つ一つ取り組んでいる姿に、私は敬意を表したいと思っております。さらなる地域包括ケアシステム構築に向けて頑張ってくださいと思う次第であります。とにかく前へ、前へと大きく変わっていかなければいけない。今はそういうときであります。ぜひ、林市長をはじめ職員の皆さんの意気込みに期待し、平成30年度一般会計予算に賛成するものであります。以上でございます。

○議 長 次に原案及び修正案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

次に修正案に賛成者の発言を許します。

2番・梅沢道男君。

○梅沢道男君 それでは、市民クラブを代表して、第7号議案一般会計予算に対する修正動議に、賛成の立場で討論に参加をさせていただきます。

平成 30 年度南魚沼市一般会計予算、2 款 1 項 7 目の企画費、いわゆるプロモーション事業費については、昨年 12 月議会における平成 29 年度南魚沼市一般会計補正予算第 4 号において、企画プロモーション事業、いわゆる貯雪費として提案された 700 万円の予算を使い、保存した雪を活用することで、オリンピック等を見据えた南魚沼市のブランド力アップに期する事業を実施する予算ということで、今議会にその事業計画の骨子と事業予算が提案されると認識していました。

しかし、先般の予算説明では渋谷区との協議は進めているとのことでしたが、事業内容については雪室や農産物の販売、家族連れへのアピール、あるいはエコエネルギーや東京オリンピック、さらには国の防災等にまで話が及び、市長の大変強い意気込みは伝わってくるものの、予算審議に足るような基本的な方針や主要な計画等の説明については、説明の中で市長もおっしゃっていましたが、とにかく時間がないためという言葉があらわすように、いまだに構想という段階であり、予算説明時の同僚議員への回答でもわかるように、未定の状況にあると言わざるを得ないような説明であったというふうに認識しています。

市長から、今ほども今年度は 1,500 万円の予算内で年度的には事業をやるというお話もございましたが、継続事業ということを見ると今年度の貯雪費という部分もまたかかってくるわけですから、大変その辺は危惧をしているところです。このような不十分な説明と判断材料だけでは、私たち議会の最も重要な役割の 1 つであります行政のチェック機能、これを果たすことはできないというふうに考えています。

企画プロモーション事業自体については、昨年 12 月補正予算の延長線上にございますので、方向的には実施に向けた取り組みが必要である。この認識については市長と思い同じくするところではありますが、現状の説明のままでの採択ということになりますと、市長に対するある意味、白紙委任に近い状態となることから、議会としても、また一議員としてもその責任を果たすことは到底できないというふうに考えています。

修正動議にあるように、500 万円の修正予算により、6 月議会までに事業実施に向けた協議検討を進めていただいて、議会として自信を持って判断ができる、それに足る主要部分の計画、さらには必要予算を補正予算として計上いただきたいというふうに考えています。500 万円で何とか動きながら、渋谷区との協議も含めて、ぜひ具体的、細部とは言いませんが、骨子を提案いただきたいというふうに考えています。

そして、議会としてもそれに基づいて責任ある判断を下したい。そういった強い思いからこの修正動議に賛成するものであります。多くの先輩議員の皆様からも、我々議員一人一人が納得でき、責任を持った判断ができる事業計画の提案を求め、こういう立場からこの修正動議への賛同を心からお願いを申し上げ、賛成討論とさせていただきます。どうか多くの議員の皆様のご賛同を心からお願い申し上げます。

○議長 次に原案に賛成者の発言を許します。

12 番・鈴木一君。

○鈴木 一君 第 7 号議案 平成 30 年度南魚沼市一般会計に、賛成の立場で歩む会を代表

しまして討論に立ちます。

現市長の独自予算、前年比 3.3%、10 億 2,300 万円減の 299 億円余りの苦渋に満ちた予算。一般会計起債残高 400 億円を超える、喫緊の課題である財政健全化を見据えた予算であると考えます。しかし、一般質問でも見られるように多くの要望があります。子育て支援、介護、教育など 1 つの施策が終わり、尻尾を切って次の予算へとならない。増える市民へのサービスを満足させなければならない。課題山積であり、自主財源が 50%にも満たない限りある予算の中での予算編成には、市長をはじめ執行部の努力が見られます。市長の大きな思いも感じられます。その思いに手足を引っ張る理由は見当たりません。小学校統廃合による改築、樋渡東西線の線路アンダーパス本体工事、3 中学校統合による八海中学など、大きな投資的事業で必然的事業を積極的に進めています。

また、子ども医療費助成、障がい者自立支援事業の拡充、財政健全化といいながら、やらなければならない事業は多方面であります。

ふるさと納税制度は恒久的な施策とは考えにくい中、特化した予算と考えています。各論に疑義が残りますが、総論おおむね賛同できるものと考えます。新市長の初予算、船出の予算であります。肩肘を張って 100 メートル全力疾走をしてきたと思われる、新市長の色の出た予算と考えています。昨年も申し上げましたが、肩肘を張って 100 メートルを全力疾走で息切れしないよう望むものであります。一歩立ちどまって考え、リラックスの中に緊張感を持って市政に臨んでいただきたい。ゆりかごから墓場まで行政でと考えることは、大変おかしな話であります。義務を果たさず、権利ばかりを主張しているのは、本当の民主主義であるだろうかと感じています。これは、社会主義の中で行われるものと考えています。優秀な職員がいるわけですから、今後、長期的な視点で、全国から南魚沼市を見習おうと言われるような方向を見出すことを願うものであります。以上、歩む会を代表しまして賛成討論といたします。ぜひ皆様のご賛同をお願いいたします。

○議 長 次に修正案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

次に原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と叫ぶ者あり〕

討論を終わることにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、討論を終わります。

○議 長 採決いたします。この採決は起立によって行います。

まず、修正案について採決いたします。第 7 号議案 平成 30 年度南魚沼市一般会計予算に対する、寺口友彦君ほか 3 名から提出された修正案に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

起立少数。よって、修正案は否決されました。

○議 長 次に、原案について起立により採決いたします。

第7号議案 平成30年度南魚沼市一般会計予算、本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

起立多数。よって、第7号議案は原案のとおり可決されました。

○議 長 お諮りいたします。本日の会議はこれで散会としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と叫ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、本日はこれで散会することに決定いたしました。

○議 長 本日はこれで散会いたします。

次の本会議は3月16日、午後1時30分、当議事堂で開きます。大変ご苦勞さまでした。

〔午後2時26分〕